

# 年次報告書 2013

---

Annual Report 2013



# 目次

3	はじめに
4	中期ビジョンの進捗
6	海外活動
12	クラフトリンク
15	国内活動
18	東日本大震災・復興支援
20	組織運営
22	2013 年度決算と 2014 年度予算
28	2014 年度役員一覧
30	付表
40	主な掲載記事
42	シャプラニール用語集

# はじめに

昨年、シャプラニールの代表理事に就任した私は、1週間と駆け足でしたが、久しぶりにネパールとバングラデシュを訪問しました。特に15年ぶりに訪れたダッカでは、その変貌ぶりに驚かされました。

空港から事務所に向かう幹線道路は綺麗に舗装され、リキシャではなく綺麗な日本車が渋滞を起こしていました。ただ、縫製産業を中心に躍進するダッカで、その勢いによって自動車を乗り回せるのは、ごくごく一握りの「お金持ち」とのこと。花形であるべき縫製工場で働く労働者の現実、昨年4月に発生したラナ・プラザ崩壊後の報道でクローズ・アップされたように、今の日本社会に生きる我々では想像し難いものです（日本も通ってきた道ではありませんが）。同事故をきっかけとして、先進国のアパレル産業も、縫製工場の劣悪な労働環境を無視できなくなりました。

しかし、労働者としての権利主張も難しい児童労働者や家事使用人は、さらに厳しい状況におかれ、まだまだ我々NGOの支援を必要としています。シャプラニールでは、「児童労働のない社会を目指した活動」を現地で継続するとともに、今年は日本国内でも特設ウェブサイトを開設し、児童労働キャンペーン（Action × Together キャンペーン）を展開しています。

さて、国内に目を向けると、日本経済全体はデフレからの脱出の兆しが見え、ちょっと懐が温かくなった人たちがいる一方、その恩恵に預かることのできない人たちも増えています。これだけ豊かな日本社会で、「貧困」という言葉が頻繁に使われるようになったことに心を痛めているのは私だけではないと思います。

また、東日本大震災からはや3年経ちましたが、被災者の方々の生活基盤の復興は道半ばであり、シャプラニールが活動するいわき市でも、ようやく恒久的な住宅への入居が始まったところ。これから長い道のりを経て、多くの新しいコミュニティが生まれることになるかと思えます。シャプラニールでは引き続き、被災者の方々の生活再建への取り組みをお手伝いしていきます。

再度、目を南アジアに向けると、自然災害が周期的に発生し、人々が一生懸命に汗水流して築いた生活が、気まぐれな自然災害によって一瞬のうちに奪われてしまうことが繰り返されてきました。当然、防災インフラも重要ですが、ちょっとした住民の意識が被害を抑えることから、シャプラニールではバングラデシュとネパールにおいて、地域住民の防災研修、防災マップの作成など、「コミュニティ防災」の活動にも力を入れています。

このように、今のシャプラニールは南アジアだけではなく国内でも支援活動を行っていることから、海外と日本の活動をどのようにつなげ、学び合っていくかを考える機会も増えました。今の日本では、国内活動を行うNPOとの対比で、海外協力を行うシャプラニールのようなNPOをNGOと呼んでいますが、お互いの垣根が低くなってきているのを実感しています。

2014年5月  
代表理事

岩城幸男

# 中期ビジョンの進捗

## 2013 年度

2013 年度から始まった中期ビジョンでは、「想いを行動に移すきっかけ作り」に重点的に取り組み、行動する市民が「つながり合う」ことによって、社会的な課題解決を目指すこととしている。具体的には、「課題解決の場」「人育ちの場」づくりをシャプラニールが積極的に進めることがうたわれている。

### 海外活動

急速に変わりつつある南アジアの活動現場では、社会を良くしたいと考える「市民」に対して活動の「場」を提供することで、想定以上の動きになることを実感した 2013 年度であった。特に現在バングラデシュ、ネパール両国で意識的に働きかけているのが、「地方行政」と「学校」である。

地方行政の能力は資金的にも人的にも限定的であるが、バングラデシュの災害リスク軽減のためのコミュニティ開発事業、ネパールの住民主体の洪水リスク削減事業、レストラン児童労働の予防と削減事業では、行政機能にうまく働きかけることで、有機的に動き出すことが成果として証しと言える。住民の動きや活動に対して新たに予算が配分されるなど、行政側との信頼関係が醸成されてきているのである。また、バングラデシュの学校現場では、地域住民によって構成される学校運営委員会\*が健全に機能することで、学校が目覚ましく活性化することがわかってきた。これは、前述の防災事業だけでなく、先住民族の子どもたちの文化教育支援、中洲(チョール\*)における児童教育などにも共通して見られた。このことは、今後の地域開発を考える上でのキーポイントになるものと思われる。

こうした行政や学校と協働する「場」を作ること、そして地域の人々と一緒に取り組むことで、大きな波及力を産み出す可能性を実感できた。その意味では「課題解決の場」「人育ちの場」の実践から、目に見える成果が得られた年度となった。

### クラフトリンク

She ソープがそうだったように、手塚プロダクションとの共同開発商品など専門家や企業との協働が進んだ。また、こうした取り組みに対して複数の受賞があったこ

とも 2013 年度の特筆すべき出来事である。普段、海外協働に直接接点のない専門家が、こうした協働で「課題解決の場」に入り、共に学び合いながら活動を進めていくのは、まさに中期ビジョンでうたわれている「想い」を「行動」に結びつけた実践活動であったといえる。一方、市民が自らの地域でシャプラニールの商品を預かり販売する「委託販売」や、シャプラニールから直接購入する「通信販売」の低下が見られた。これらは、購入や販売を通じて海外協働に参加する手段としても位置づけられ、今後対応が必要であろう。

### 国内活動

帰任した駐在員が講演を行う全国キャラバン、活動地の状況を視察するスタディツアー\*など、人々が行動を起こすきっかけづくりを意識的に実施し、多くの参加を得た。年度後半には子どもたちの参加の機会としてシャプラニール・ジュニアサポーター制度を創設し、2014 年度から本格的に活動を進めていく準備ができた。また、地域連絡会\*の活性化をはかるため、連絡網の整備や各地域の会員情報の共有などの作業を進めた。シャプラニール 40 周年を記念して発刊された書籍「シャプラニール流 人生を変える働き方」は、多くの方にシャプラニールの考え方や実践を知ってもらうきっかけとなり、書籍という「学びの場」を創り出した。

### 東日本大震災の被災地支援活動

これまでどおり福島県いわき市で、民間の借り上げ住宅に避難し、元のコミュニティからバラバラになった人々への情報発信と一緒に集える場作りのため「ぶらっと」を運営してきた。2013 年度はそれに加えて、いわき市民による交流スペース「まざり〜な」の展開、および地元 NPO のネットワーク団体「3.11 被災者を支援するいわき連絡協議会(みんぷく\*)」への協力、行政との話し合いや協議の場への積極的な参加を進めてきた。

## 2014 年度

2014 年度は、これまで進めてきた「場」づくりの成果を積極的に広く伝えるとともに、企業、行政、団体との協働をさらに意識しながら活動を進めていこうと考えている。

## 海外活動

バングラデシュやネパールでは地方行政や学校との協働をさらに進めつつ、その成果を他の地域や団体へ共有するための取り組みを行う。ネパールでは平野部での洪水防災プロジェクトにおいて日本の防災専門企業からの専門的なアドバイスを受けていたが、2014年度はさらに踏み込み、その技術を活用したより大規模な防災関連事業の立案可能性を探ることになっている。また、ネパール・カトマンズ盆地内での実施を予定している地震防災キャンペーンや、バングラデシュで使用している防災教育教材の見直し作業において、日本の専門家からの協力を得ることで災害大国である日本の経験を生かし、より効果的な取り組みにする。

2013年度は、児童労働の問題を訴えるキャンペーンを、複数のNGOや学生の参加を得てバングラデシュ、ネパール両国で実施したが、2014年度はAction×Togetherキャンペーンと銘打ち、児童労働をなくすための取り組みを日本でも行う。日本と現地を結び、それぞれで多くの団体や学生を巻き込みながらひとつの課題を解決するための「場」ができる。

## クラフトリンク

貧困問題を解決するための「場」の一つとしてのフェアトレードをさらに普及するため、日本におけるネット

ワーク組織の運営を担うなど、積極的な取り組みを進めることにしている。そして、フェアトレードの商品を買う、あるいは活動に参加することを通じて消費のあり方を考えるとといったメッセージを伝えていく。

## 国内活動

ステナイ生活や寄付プログラムなどにおいて、より多くの企業や団体の参加を呼びかけるほか、2013年度に始まったシャプラニール・ジュニアサポーターを広め、具体的な活動を促進していく。また、シャプラニールの活動を含めた国内外のさまざまな課題についての理解を深めるための企画「海外協力のつどい」を通して、参加の間口を広げたいと考えている。

## 東日本大震災の被災地支援活動

時間の経過とともに変化していく状況に対応しながら、その都度何が必要かを見極めながら活動を進めてきた。2014年度以降は、「みんぶく\*」を核として復興支援活動を続けて行けるよう、地元の団体や行政、住民組織との協働をさらに進めていく。

さまざまな立場の個人・組織のつながりを通して、社会問題の解決を目指していこうという中期ビジョンの理念を、中間年となる2014年度はさらに意識しながら活動を進めていきたい。

## 中期ビジョン 2013～2015

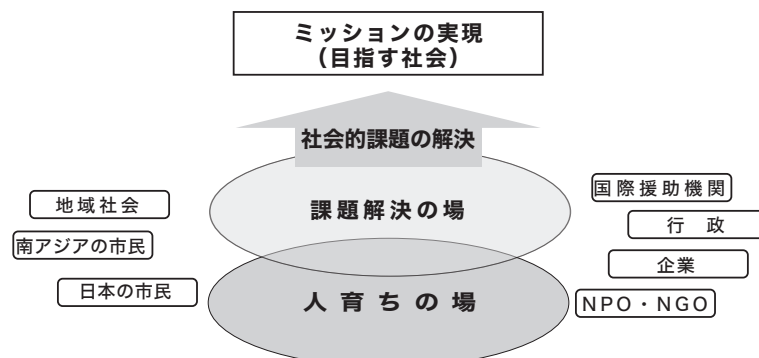
シャプラニールは、次の3カ年において、市民が「すべての人々が豊かに共生する地球社会の実現」を自らの課題として認識し、一人ひとりが行動に移す「場」をつくることにより、さまざまな社会的課題の解決を目指します。

### 1. 課題解決の場・・・多様な人々・組織がつながり合う「場」

シャプラニールは、問題意識を共有する個人や組織、とりわけ社会に対して大きな影響力を持つ企業、行政などに呼びかけ、それぞれの技術・技能、知恵、資金など提供できる資源を持ち寄り、社会的な課題の解決に向けた道筋を見出していきます。

### 2. 人育ちの場・・・行動を起こす人が育つ「場」

シャプラニールは、市民一人ひとりがさまざまな社会的課題を自らの問題として捉え、主体的に行動することの意味や影響力を自覚し、社会を変革する力であることを実感、成長できるよう促していきます。



# 海外活動

## 2013 年度 活動報告

2013 年度に発効した中期ビジョンを受け、「さらに多様なステークホルダー\*との協働に取り組むことで、波及力の強い活動となる」ことを、海外活動全体の大きなテーマとして注力した1年だった。中でも特に、行政機関との協働が形だけでなく、実質的な内容を伴うようになったのが、2013年度の成果であったといえる。

例えば、公立の学校に設置が義務付けられている学校運営委員会\*の活性化（児童教育やサンタル\*支援）や、行政機関の機能強化（児童労働の監視、防災）など、これまでシャプラニールがあまり協働の対象としてこなかった行政関係者や地域社会の有力者などとの多様な協働の進展により、社会の制度や仕組みの改善につながるような、大きな社会的インパクトが生み出されつつあると言える。

### 1. 児童労働のない社会を目指して

#### バングラデシュ

首都ダッカ市内におけるストリートチルドレン支援活動を2000年に始めて以来、児童労働に従事せざるを得ない子どもが一人でも少なくなることを目指し、社会状況にあわせて活動の内容をその都度変化させてきた。現在、この課題に直接的に取り組んでいるプロジェクトとして、家事使用人として働く少女への支援活動がある。首都ダッカ市内と、第二の都市であるチッタゴン市内で、状況の異なる計6地区を選定し、時間をかけて個別世帯の訪問を繰り返しつつ、児童労働の有無を確認。子どもたちが日中集まり、勉強や遊びの機会が得られるセンターを設置し、雇用主を説得しつつ、毎日数時間ずつセンター運営を行ってきた。このうちダッカ市内の4つのセンターでは、運営を一部でも任せられるようになる

ことを目指し、各地域で住民有志によるグループを結成することができた。

しかし、こうしたセンターの運営を続けるだけでは活動が「点」にとどまり、面的な広がりが出ず、新たに生まれる家事使用人として働く少女を減らすことにつながらないため、2013年度からはバングラデシュ社会に広く課題の存在を訴えるキャンペーンへの取り組みを開始した。センター運営をしている地域限定で、6月の児童労働反対世界デーにあわせたキャンペーンを行ったところ、これまで関心はあっても活動にかかわるきっかけがなかったという、大学生など若い世代の積極的な協力が得られ、他のNGO関係者とあわせ120人ほどが参加してくれた。これをきっかけに、類似の活動を行う6つのNGOと定期的な会議が持てるようになり、2014年度以降の協働の枠組みができた。

#### ネパール

2004年にストリートチルドレンや働く子どもたちへの支援を始め、2010年まで首都カトマンズに隣接するラリトプール市（パタン地区）を中心に活動を続けた。その結果、少なくとも活動対象としていた地域では、家事使用人として働く子どもが減少し、住民の意識も変化が見られたものの、茶店など小規模なレストランで働く子どもの存在には大きな変化がなかったことから、その課題の解決に焦点を絞った活動を2011年度から開始。行政が、本来もつべき機能を発揮できるようになることを目指し、行政機関で働く職員の給与を一定期間負担するなど、シャプラニールとしては前例のない手法を選択した。対象としたのは首都であるカトマンズ市のほか、ラリトプール市、キルティプール市の3市。各市役所の



家事使用人として働く少女の現状を伝えるキャンペーン。



パートナー団体 CWIN に保護された、レストランで働く子どもたち。

中に児童労働を監視するための部署を設置してもらい、活動が軌道にのるまでの支援を行っている。このうち 1 市でも、プロジェクトからの支援が終わった後も活動が継続できるようになればいいと考えていたが、ラリトプール市では市の年間予算に占める児童福祉の割合が活動開始前の 10% から 15% に引き上げられることが決まったり、カトマンズ市が区単位で始めた児童労働監視委員会の試みを、キルティプール市もすぐに模倣し、全区で有志を募る動きが生じるなど、予想以上に行政側が積極的になってきている。

## 2. コミュニティ防災への取り組み

### バングラデシュ

2007 年 11 月、南西部に大きな爪痕を残したサイクロン\*「シドル」への救援・復興支援活動をきっかけに、2010 年から、コミュニティ防災をテーマにした活動を開始。地域住民の中でも、社会課題に強い興味を持ち始める年代である青年層に特に注目し、270 人以上の若者へ防災研修を行ったところ、高齢者や子ども、障害者ら災害弱者の特定と家庭訪問を自主的に始める例が見られたほか、実際の災害時にボランティアとして活躍できる



防災教育教材を使った授業。

ようになるなどの成果があった。

しかし、世代交代が進む中で知識や経験が継承されなくなることを防ぐため、2012 年度からは学校教育と地方行政の能力強化に焦点をあてた活動に取り組んでいる。2013 年度には独自の防災教育教材が完成し、小学校高学年から中学校までの生徒約 1,500 人に対する課外授業を開始することができた。これまでの教科書にあった、一般知識としての「サイクロン\*とは～」といったものとは異なる実践的な内容が評判を生み、近隣の学校から「利用したい」という引き合いがきている。また、ユニオン\*（行政村）単位の防災委員会やサイクロンシェルター\*管理委員会などの活性化にも成功し、2013 年度のユニオン\*予算に、防災関連活動に対する予算措置が初めて実現した。

### ネパール

ネパールでは、有名な観光地でもある国立公園を有するチトワン郡で、南部に広がる平野部とその近くの丘陵地を対象に、洪水と地すべりへの対策を組み込んだ農村開発プロジェクトを 2007 年に開始。その後、2011 年度からは、影響を受ける人口規模がより大きな、洪水の常襲地に絞ったコミュニティ防災活動として継続してきている。度重なる洪水によって被災した住民が、自分たち自身でできることから、行政に整備してもらうべき防災インフラにいたるまで、必要な対策をリストアップし、防災マップとともに地域の防災計画を作成。2013 年度は、防災に専門知識をもつ日本人外部専門家を計 3 回にわたって現地に派遣することで、この住民自身が策定した防災計画の妥当性を確認し、改善に向けた助言を行うことができた。

一方、新規プロジェクトとして、カトマンズ盆地における地震防災に取り組むことを決定し、家庭の中での行動にしばったメッセージを広く伝えるキャンペーンから始める予定だったが、2013 年度中にはその準備として、地震に関する認知度を把握するためのワークショップの実施にとどまり、キャンペーンは 2014 年度へ持ち越すこととなった。

## 3. その他の取り残された課題への取り組み

### ～みんなが生きやすい地域づくり～

### バングラデシュ

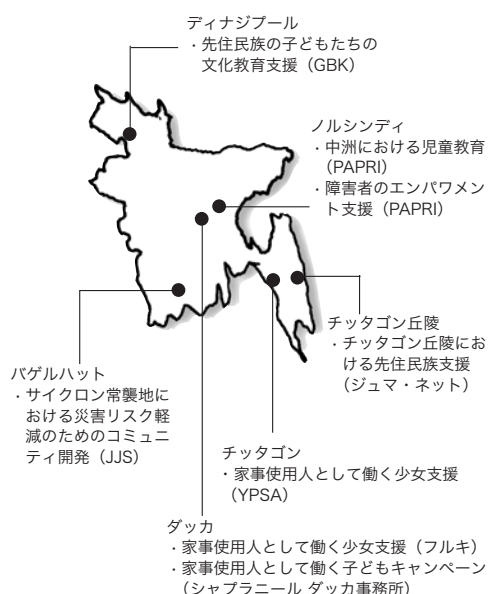
国全体としては、就学率が劇的に改善してきたものの、まだまだ地域や属性による格差が大きい中、地理



学校に通っていない子どもがいる家庭への訪問。

的に不利な条件にある中洲（チョール\*）に住む子どもたちが学校に通い続けられる環境を作ることを目的としているのが、「中洲における児童教育」である。補習教室の設置運営を通じて保護者の教育に対する意識を高め、学校の状況改善に向けた関わりを強化することで、これまで有名無実だった学校運営委員会\*（SMC：School Management Committee）の活性化を目指してきた。活動地以外の学校ではSMCが機能していない例が多く、就学年齢児童の調査がされていないということや、入学後に4割程度が退学してしまうなどの問題があるのに対し、私たちの活動対象となった学校では就学および通学継続率がほぼ100%となるなど、すでに大きな成果が表れている。

「バングラデシュ北西部先住民族の子どもたちの文化教育支援」は、サンタル\*と呼ばれる先住民族の人々が、ベンガル人社会の中で不利な立場におかれることなく、平等な権利を享受できるようになることを中長期的には



目指している。まずは就学前の子どもたちを対象にした教育支援に取り組んでいるが、2年目となる2013年度までに、計127人の子どもたちが就学前教室を卒業して公立小学校へ入学。この子どもたちの教育環境のさらなる改善をはかるため、SMCメンバーにサンタル\*の女性を選出されるよう、会合と選挙の準備を支援した結果、8つの学校で計9人のサンタル\*が選ばれた。自分たちが直面している問題を共有し、今後の課題解決に向けた足掛かりを築くことができた。

「チッタゴン丘陵地帯における先住民支援活動」では、レイブ被害を受けた女性への直接的な支援に加え、先住民族としての権利が侵されている状況を国際社会に訴えるためのアドボカシーにも取り組んでいる。2013年度中にまとめる予定だった「チッタゴン丘陵白書」は、最近の新しい動きを反映させた和文版を先に発行することに方針を変更。完成は2014年度になる見込み。

また、障害者への支援に関しては2000年代以降、住民の生活向上支援活動の一環とし小規模に取り組んできたが、2012年度からは身体障害者を中心とした障害者のエンパワメント\*に特化したプロジェクトになっている。障害者のニーズに応じた支援が、コミュニティぐるみで行えるようになることを目指し、障害当事者によるグループの結成と育成などを通じ、家族や地域住民から、行政サービスまでを含めた支援体制の構築に必要な活動を行ってきた。現地パートナー団体であるPAPRI（パブリ）に対する地方行政の厚い信頼もあり、障害者への支援の必要性と現状に関する認知が広がり、障害者問題に関するユニオン\*特別委員会の設置などの成果が表れている。しかし一方、リハビリの巡回指導など、目の前の課題解決に必要な支援に終始しがちな傾向があり、それをどう抑えつつ、より多くの住民が参画する活動の方向性を構築できるかが課題となっている。

## ネパール

農村開発の新規プロジェクト立案を目的とした調査を2012年度から始めているが、これまでに、シャプラニールと問題意識を共有できるパートナー候補を選定するところまで作業が進んでいる。しかし、いつ大地震に襲われてもおかしくない状況に鑑み、地震防災への取り組みを優先することから、先に保留を決めていた高齢者への対応とあわせ、農村開発のプロジェクト形成はしばらく待つこととした。



## 4. その他報告事項

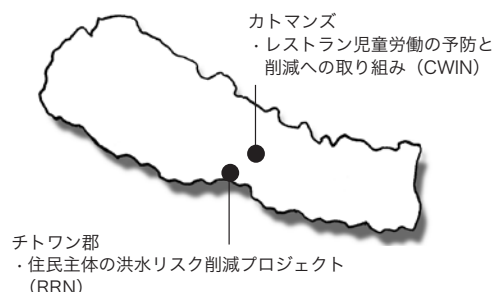
バングラデシュは2008年12月以来、5年ぶりとなる総選挙の実施をめぐる党と野党の対立が激化。その結果、ダッカ市内と地方都市との交通が寸断され、人々は暴力を恐れながらの生活を長期にわたって強いられた。シャプラニールも活動の評価作業が遅れるなど、少なからず影響を受けたが、パートナー団体やスタッフの努力により、予定されていた活動は中断することなく行うことができた。総選挙は2014年1月5日に実施され、その後は小康状態を保っている。予定していた駐在員の交代も、2013年12月にダッカ駐在員が植田から石井に、また2014年2月に事務所長が藤崎から内本に、それぞれ引き継がれた。

ネパールでも2013年11月に憲法を制定するための議員を選ぶ2回目の選挙が行われたが、大きな混乱はなく終了。2014年2月には、新政権が1年以内の憲法制定を目指して発足している。

インドでは西ベンガル州に活動拠点をもつ現地NGO、DRCSC（通称：サービスセンター）を通じて同州北東部の紅茶園スラム居住者への支援活動を継続。有機農法の導入や家庭菜園の工夫などで多くの住民が収入を増やし、

生活を改善することができた。

日本ではトヨタ財団からの助成により、「パートナーシップ」をテーマにした国際会議を東京と大阪の2カ所で実施し、合計で約90人の参加を得た。会議に先立ち、シャプラニールの経験をまとめた動画を制作したほか、会議で得られた知見を含め、パートナーシップに関する有識者による座談会の様子などを収録した報告書を作成。NGOやODA関係者へ広く送付、共有することができた。



# 2014年度 活動計画

バングラデシュ、ネパールともに、行政関係者らとの多様な協働により、社会制度の改善までを見据えた大きな波及力が各活動に生まれつつあることは、報告で示したとおりである。そのため2014年度は、これまでに得られた成果を広く共有していくことも積極的に行ない、社会の変化をより確実なものにしていく年となる。単に成果を並べるだけでなく、その成果を得るのに最も効果のあった活動は何かを整理し、その仕組みを他の機会でも応用できるよう、経験を分かりやすくまとめることから、パートナー団体とともにじっくりと取り組みを始めていきたい。

## 1. 児童労働のない社会を目指して

### バングラデシュ

2013年度に引き続き、「家事使用人として働く少女」の現状と課題をバングラデシュ社会に広く訴えるキャンペーンを、6月12日の児童労働反対世界デーにあわせて複数のNGOと合同で行うほか、計6カ所のセンター運営も継続する。また、キャンペーンも含むこれまでの活動の成果と課題はもちろんのこと、バングラデシュ

の児童労働問題全体の変化も含めて広く振り返る作業を進める。その上で、センター運営をどうするか、キャンペーンやアドボカシーにもっと注力していくのかなど、2015年度以降の活動の方針を決め、準備をしていく。なお、ダッカ市内の各センターでは、地域住民による物品や現金の寄付など、コミュニティからの協力が進んできているが、センター運営に対しても住民がどのように関わられるかということとあわせ、対話を進めていく。

## ネパール

首都圏の3市に、児童労働を監視する部署の設置を進めてきたが、すでに予想以上の進展を見せていることから、2014年度は、こうした活動の仕組みと成果を他の自治体にも広く共有していくためのワークショップを企画することで、ネパール社会全体の変化につながる取り組みを行う。また、2015年度以降の全国展開を視野に入れた新規プロジェクトの立案も進める。

## 2. コミュニティ防災への取り組み

### バングラデシュ

2013年度中に作成した防災教育教材とそれを使用するカリキュラムの質を向上させるため、日本の知見も活用しつつ、必要な改善を行う。また、2013年度に実施した中間評価や、防災を専門とする現地NGOへのインタビューを通じて、シャプラニールが注目している「学校を核とした防災教育」の取り組みはユニークなものであり、バングラデシュ政府や国際機関などによる行政機能強化につながるさまざまな施策と組み合わせることで、防災の効果をより高めることができるとの認識を得ている。これを受け、成果を地方行政だけでなく、中央レベルでも共有するためのワークショップを企画する。また防災教育に限らず、より広い視点での情報収集から始め、これまでよりも規模を拡大した新規プロジェクトの立案を進めていく。

## ネパール

洪水の常襲地におけるコミュニティ防災活動は、地方行政側からの支援要請もあり、活動地を拡大する。また、



ハザードマップの見直し作業。

住民グループが独自に作成してきた防災計画が、郡や村が策定する防災計画の中に反映されるよう、行政との関係強化に努める。

地震防災の新規プロジェクトは、首都圏の人口が密集しているリングロード（周回道路）内を広く対象としたキャンペーンを1カ月程度の短期間、集中的に行う。その際、家庭の中で具体的に取る行動を分かりやすく示すメッセージを伝えていく予定であり、そのメッセージを選定するための事前ワークショップも、多くのNGOなどと協働して行う。準備にあたっては、日本の経験も生かすべく、必要に応じて専門家の派遣も検討する。キャンペーンの実施後には、その成果の分析とあわせ、2015年度以降に取り組む「コミュニティ地震防災プロジェクト（仮称）」の立案に取り組む。



障害のある子どもの親にセラピーの方法を指導しています。

## 3. その他の取り残された課題への取り組み

### ～みんなが生きやすい地域づくり～

### バングラデシュ

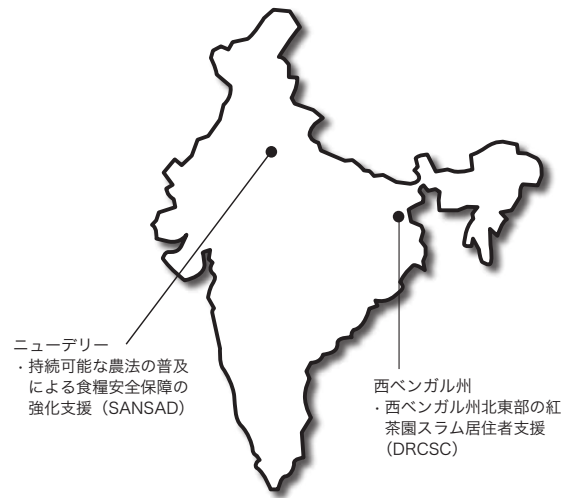
「中洲(チョール\*)における児童教育」、「バングラデシュ北西部先住民族の子どもたちの文化教育支援(サンタル\*支援)」、「チッタゴン丘陵地帯における先住民支援活動」、「障害者のエンパワメント\*支援」の4つのプロジェクトは、いずれも2014年度が最終年度となるが、サンタル\*支援についてはまだ新しい取り組みであり、サンタル\*の人々の権利が保障される社会の実現に向け、2015年度の開始を目標とした次期プロジェクトの立案を行う。他のプロジェクトはこれまでの成果が何によってもたらされたかを分析した上で、ワークショップなどの機会を積極的に設け共有していく。

## ネパール

児童労働の削減およびコミュニティ地震防災新規プロジェクトの立案に優先的に取り組みつつ、状況に応じて新規農村開発や高齢者に関する活動の立案に向けた準備を始める。

## インド

これまで3年間にわたって実施してきた「西ベンガル州北東部の紅茶園スラム居住者」への少額支援を、2014年度も継続する。また、首都ニューデリーに本部を置く現地 NGO、SANSAD (シャンシャド) が、地球環境基金の助成を得て行なう「有機農法の普及を目指した活動」を、文書の翻訳などを通じた仲介役として関わる。



## 【コラム】 パートナーシップ

2013年度は、4月に東京と大阪で開催した国際会議を皮切りに、「パートナーシップ」について改めて考え直す機会の多い1年間となった。その中で、現在のシャプラニールが再度認識すべきだと強く思ったことを一点だけ、この場で紹介しておきたい。それは、「私たちは何のためにパートナーシップを組むのか?」ということである。

パートナーシップ方式を採用することによって「人事管理などの負担が減り、フットワークが軽くなる」「新しい課題への対応がしやすくなる」といった認識が、日本の NGO の間ではまだまだ根強い感があるが、これにはシャプラニールの経験から、明確に「ノー」と言いたい。パートナーと真摯に向き合うには、想像以上にさまざまな困難が伴うのが実情だ。

例えば、どんなに「対等な立場」であることを強調し、常に相手を尊重したいと思っても、いわゆる説明責任の観点から、お金を出す立場である私たちがパートナーを一方向的に管理してしまうという傾向が、年々強くなってきている事実もあり、理想と現実との間には大きなギャップがある。

その後代表理事になる大橋会員 (当時) が、18年前の会報 (143号 / 1996年11月) で、すでに次のような指摘をしていたことの意味を、いまいちど思い返しておきたい。

「シャプラニールはバングラデシュ現地の NGO をパートナーとすべき ~中略~ 目的は特定のプロジェクトの完遂ではなく、現地の人々の自立性を高めることである」

パートナーシップは、プロジェクトを実施するための手段ではなく、もっと多様な関係性を表すものだ。シャプラニールでも、資金を介さないパートナーシップの構築に、意識して取り組み始めたところである。

(文 / 海外活動グループ チーフ 白幡利雄)



福島県を視察する、国際会議で来日したパートナー団体の代表者と大橋評議員

# クラフトリンク

## 2013 年度 活動報告

今後の方向性を議論し、商品販売だけ、またはフェアトレードの普及啓発といった社会運動的活動だけに取り組むのではなく、その2つを両輪にして活動を進めていくことを確認した。売上は通信販売（カタログおよびインターネット販売）を中心に全体的に落ち込み、目標 7,660 万円に対し 86% の 6,563 万円にとどまった。なお、2013 年度はクラフトリンクの商品生産により約 550 人が年間 100 日の仕事を果たした計算になる。2010 年度から開発を進め、2013 年度は約 13,000 個を売り上げた She ソープのバングラデシュの生産工房では、当初 3 人だった生産者が 20 人にまで増え、セックスワーカーとして働かざるをえなかった女性が誇りを持って仕事ができる場が拡大している。

### 1. 今後の方向性の検討

～より効果的な活動を目指して～

クラフトリンク活動を今後いかに展開するべきかについて、日本国内のフェアトレードの専門家やバングラデシュとネパールの現地パートナー団体などから聞き取りをしながら議論を進めた。その過程で、シャプラニールは商品販売を行っているからこそフェアトレードの意味を伝える説得力があること、委託販売協力者、販売協力店など多くの方々の協力がフェアトレードの普及には今後も欠かせないこと、また商品開発や生産者情報の発信がよりいっそう求められていることが確認された。そのため、今後も従来どおり、生産者の生活向上を目指すためフェアトレード商品の販売を行うが、取扱商品点数を絞っていき、その分生産者情報を今よりも丁寧伝え、かつ新商品開発に注力してより魅力的なフェアトレード商品を販売していくことを決定した。同時にフェアトレードの普及啓発はフェアトレード商品販売に合わせて行う以外に、当会だけでなく他のフェアトレード団体、

関係者とも協力して行うことで広がりを持たせていくこととした。

### 2. 販売促進

～販売協力店での取り扱い増加を目指す～

She ソープの母の日とクリスマスの限定パッケージは好評を得、母の日用は 600 個を完売、またクリスマス用は計 1,029 個（目標 1,200 個）を販売した。こうした販売促進活動の結果、She ソープの発売当初からの売上総数は 26,542 個となった。販売協力店の新規開拓のため、東京インターナショナルギフトショー\*（2014 年 2 月）への出展や She ソープ取扱先への手工芸品の営業などを行い新規店は 63 店、合計 358 店となった。しかし、カタログ通販の新規顧客の減少、インターネット通販のリピーター購入率の低さが原因で通信販売の売上が減少するなどの影響が大きく、全体の売上は約 6,563 万円（目標 7,660 万円）にとどまった。

### 3. 商品開発

～ She ソープ関連商品を中心に～

She ソープに合ったデザインのソープディッシュ（石けん置き）とリピーター顧客向けの簡易パッケージの開発を She ソープの専門家の協力を得て進めた。また、手塚プロダクションとの共同開発商品（ジュートバッグ、ノート、レターセット、はんこ、一筆箋）は、クラウドファンディング\*を通じて全国 145 名の支援を得て商品化が実現した。また、手すき紙を生かした商品の開発を外務デザイナーと協働して進めた。これらの商品の販売は 2014 年度に行うこととなった。



クリスマス限定パッケージ、She クリスマスソープ。

## 4. フェアトレードの深化ほか

日本で唯一のフェアトレードのネットワーク組織であるフェアトレードタウン・ジャパン\*のフェアトレードタウン認定委員として熊本市の認定更新を行ったほか、中期計画を検討する合宿などにも積極的に参加した。3月28日～31日に熊本市で開催されたフェアトレードタウン国際会議 in 熊本では、フェアトレードの知見と関係者との交流を深めた。また、She ソープのデザイン性とその社会的意義が評価され、ソーシャルプロダクツ普及推進協会の「ソーシャルプロダクツ・アワード\*」優秀賞を受賞し、日本経済新聞の「日経ソーシャルイニシアチブ大賞\*」ファイナリストに選定された。



ソーシャルプロダクツ・アワード\*受賞を喜ぶネパール石けん生産者。

# 2014年度 活動計画

中期ビジョンにおいてフェアトレードは、安全な労働環境で生産され、適切な対価が生産者へ支払われた商品の売買を通じた「課題解決の場」の1つだと捉えることができる。また、フェアトレードを通じて消費のあり方や身の回りの暮らしを考えるなど、市民参加の場を提供するという意味においては、「人づくりの場」としても大きな意味を持っている。2014年度は商品販売とフェアトレードの普及啓発をバランスよく進めていくために、2013年度目標が達成できなかった売上を向上させることを目標とする。販売促進活動を計画的に進め、売上7,150万円を目指す。また、福島県産品の取り扱い準備をすすめ、販売開始を目指す。フェアトレードの普及啓発は関連団体とともに推進していく。

## 1. 売上の向上

売上分析をこれまでより細かく行い、商品開発や販売促進活動に活かしていく。販売協力店や生協などへの卸販売の営業を引き続き重視するとともに、課題となっている通信販売、特にインターネット通販の売上増を目指す。インターネット通販独自の季節的な特集やセールなどの販売促進、ページの充実を行い、リピート購入者を増やす。また、費用対効果を考えたカタログの発行部数、配付先の絞り込みを行い経費の削減を行う。販売協力店の新規開拓のため、これまで参加したことのないセレクトショップなどのバイヤーが集まる展示会に出展する。なお、以下の商品を中心に販売促進活動をすすめる。

### (1) She ソープ関連商品

10月販売開始を目指して簡易パッケージの商品化を進める。また、ソープディッシュを2014年秋冬カタログより販売する。She ソープの母の日とクリスマスの限

定パッケージはギフトセットの品ぞろえを強化して販売する。

### (2) 手塚プロダクションとの共同開発商品

4月末に販売を開始し、商品開発や生産の背景を伝えながら販売協力店、生協などの大口顧客へも営業をすすめていく。



手塚プロダクションとの共同開発商品。

### (3) 外部デザイナーとの手すき紙共同開発商品

手すき紙を生かした商品の開発を引き続き行い、2014年秋冬からの販売開始を目指す。

## 2. 魅力的な商品の開発と導入

2015年度の新商品として、伝統的な手織の技術を活かしたストールなどのファッション小物や雑貨を中心に開発していく。また、新たな試みとして福島県で復興、生活再建を目指し作られている産品を発掘し、販売する。

## 3. フェアトレードの普及

フェアトレードタウン・ジャパン\*の事務局業務の一部を担い、その基盤強化に貢献することで日本全体のフェアトレード普及の推進に貢献する。



ネパール陶器の伝統的な生産工程。

### 【コラム】フェアトレードタウンでまちづくり

皆さん、熊本市と聞いて思い浮かぶことはなんでしょう？ くまもん？ 馬肉？ どれも素敵ですが、忘れてならないのは世界で1000番目、そしてアジアでは最初（ということは日本でも最初）のフェアトレードタウンだということでしょう。

熊本市が市民への浸透や一定のフェアトレード商品取扱店数、自治体の支持などの基準をクリアしてフェアトレードタウンとして認定されたのは2011年6月。まだタウン認定から3年も経たない、2014年3月末にフェアトレードタウン国際会議が開かれ、私も参加してきました。日本中、そして世界から約500名以上の方々が集まりました。日本のフェアトレードタウン運動についての分科会では、現在フェアトレードタウンを目指している地域の方々から現状や課題について共有がありました。すると、フェアトレードタウン運動の担い手がフェアトレードショップの方、研究者の方、フェアトレードが好きな方など、地域によってさまざまなことがわかりました。その担い手の多様性と同時に、その地域の特徴（自治体の規模、自治体の市民運動への態度、運動の盛り上げ役になりうる大学の有無など）によって、その運動の進み方なども異なっていました。

そういった多様性がある一方で、どの地域でもフェアトレードタウン運動をする中でその地域をよりよく

知り、多くの人々とつながりが生まれていると感じました。目指していることはフェアトレードタウンなのですが、フェアトレードを通じた地域の活性化、まちづくりになっていました。フェアトレードとはいちばん身近な海外協力であり、世界とのつながり方のひとつの方法ですが、タウン運動はさらに自分の足元の地域とのつながりを強める力を持っているのです。

(文/クラフトリンクグループ チーフ 勝井裕美)



# 国内活動

## 2013 年度 活動報告

中期ビジョンで定めた「場」づくりを意識し、課題解決へ向け市民参加の場を創造するとともに、さまざまな立場の人々がつながるような取り組みを進めてきた。同時に、海外協力事業を支える財源を確保するという役割を果たすため、新たな寄付プログラムの開発やステナイ生活の拡大を目指した。

### 1. 問題解決するための「場」づくり

#### (1) 新たな担い手への働きかけ

入門講座をシャプラニールの活動への入り口と位置づけ、一般向けの講座を6回行ったほか、フェアトレードや児童労働などテーマを絞った「特別編」を6回実施した。特別編にはボランティアや会員などが多く参加し、シャプラニールの活動についてより深く知りたいというニーズがあることが確認できた。企業との協働の可能性を広げるために関連する会議やセミナーへ積極的に参加し、企業との関係を強めた。新たな開発教育教材の開発については2015年度以降に実施することとした。また、子どもの参加の場として小学校高学年から高校生を対象とした「シャプラニール・ジュニアサポーター(シャプラジュニア)」制度を2月に開始し、年度末までに8人の申し込みがあった。

#### (2) 国内の課題への関わり

検討グループを立ち上げ議論した結果、国内の課題に取り組むNPOなどとの人材交流やスタッフ研修、共同イベントの企画などを行う中で学びを深めていくこととした。



全国キャラバン(菅原)。北九州のフェアトレードショップにて。

#### (3) 「つなぐ」役割

勝井・菅原前駐在員が現地の活動について講演する全国キャラバンを、4月から6月にかけて実施した。合計で17都市、26カ所での講演を行い、約800人が参加。シャプラニールの活動や現地の状況への理解を深めた。夏に予定していたバングラデシュのスタディツアー\*は政情の悪化により中止したが、12月にネパール平野部の活動などを視察するツアーを、3月には中高生を対象としたネパールへのツアーを実施し、それぞれ8名、12名が参加した。ツアーの経験を広く伝えるため、中高生ツアーの参加者による帰国報告会も予定している。地域連絡会\*の活動の活性化を図るため、連絡会同士の連絡網整備、会員情報の共有に関する意思確認などの作業を進めた。シャプラニールの活動に対する新たな理解者を増やすとともに、会員やボランティア同士の交流を図ることを目的とした「つどい」企画の実行委員会を立ち上げ、2014年度開催へ向けた準備を開始した。

### 2. 広く参加を呼びかける

#### (1) 会員制度の見直し、新たな寄付プログラム

ここ数年会員およびマンスリーサポーターの減少傾向が続いているため、会員種別の見直しを含めて対策を検討した結果、まずシャプラニール自体の認知度の向上を目指すこととした。ソーシャルネットワークサービス\*を利用した寄付プログラム「gooddo\*」に参加し、少額ではあるが継続的な寄付を得ることができた。マンスリーサポーターの寄付分も含めた年間寄付金額は目標の4,460万円に対し、3,830万円と及ばなかったが、企業による寄付付き自動販売機の導入や、新しく制作した募金箱の店舗などへの設置など、新たな取り組みが始まり、今後の可能性を感じる事ができた。

## (2) ステナイ生活の拡大

貴金属類の寄付を呼びかける「タンスのこやしキャンペーン」、中古家電買取業者の協力による家電製品回収プログラムなど、新たなプログラムを開始した。「タンスのこやしキャンペーン」で集まった貴金属の換金額は約160万円となった。年間の換金額合計は目標3,400万円に対し2,400万円と及ばなかった。生協などとの協働による、はがきや切手の回収ルートの新規開拓を目指したものの、大口の開拓には至らなかったことが主な要因であるが、そのために予定していた支出も大幅に予算より減っている。協力者を増やすための取り組みとして、学校や企業との協働事例を集め、ウェブサイトや会報上での積極的な広報を開始し、2014年度も継続する。



中学生・高校生スタディツアー\*。カトマンズ市内の学生との交流会。

## 3. 広く活動を伝える

### (1) 「伝える」ための工夫

現在の活動やこれまでの実績を伝えることを目的としたDVDを制作し、無料配布を開始した。8月から順次ウェブサイト上での公開も開始し、閲覧数はこれまで千回を超えている。また、シャプラジュニア用のページを新たに制作し、子ども向けのコンテンツを充実させた。40周年記念事業の一環で制作した記念書籍「シャプラニール流 人生を変える働き方」をタレント・藤岡みなみさんや2025プロジェクトの協力を得て出版し、全国で合計10カ所の大学で出版記念の講演会を行い、多くの若い人々にシャプラニールの活動を広報することができた。

### (2) 会報の見直し

会報リニューアルのタスクフォース\*を立ち上げ、会報の内容や発行頻度について見直しを進めた。その結果、これまで活動の報告に重点を置いていた会報を、会員の満足度を上げるためのツールとして捉え、より読んでもらえる内容、体裁へと変更することとなった。2014年度から年4回の季刊とし、内容やデザインも新たに生まれ変わる。

# 2014年度 活動計画

2014年度の国内活動のテーマを「共感、そして行動へ。」とする。共感することから人々の行動が生まれると考え、会員、寄付者、協力者、ボランティア、一般市民から共感を得られるような活動および伝え方を心掛ける。一方で、会の活動が安定的かつ自立的に継続することを目指し、認知度を上げることと、資金調達の強化に注力する。

## 1. 共感を呼ぶ広報

### (1) 認知度の向上

常にニュース性を意識した取り組み、発信の仕方を心掛ける。児童労働をテーマにしたキャンペーンを軸に、より多くの人にシャプラニールの活動を知ってもらい、理解者・支援者を増やす。

### (2) 会報・ウェブサイトの充実

会報の全面リニューアルを進め、会員の満足度を上げることが第一の目的とし、読みたくなる紙面づくりを心掛ける。ウェブサイトでは、シャプラジュニアの活動や企業との協働事例などの紹介をこまめに行い、より多くの個人、団体、企業の参加を促す。



## 2. 参加の場をつくる

### (1) 参加のきっかけづくり

新しい人との出会いの機会として、定期的な入門講座の実施を継続する。藤崎駐在員の帰国に合わせて全国キャラバンを実施する。夏と冬に一般向け、年度末に中高生対象のスタディツアー\*を実施する。こうしたイベントの参加者へのフォローを丁寧に行い、継続的に活動に関わる人の層を厚くする。

### (2) 会員・ボランティアのつながり

ユース・チーム\*とも連携しながら、シャプラジュニアの取り組みを広め、定着させる。クシクシ倶楽部\*を中心としたボランティアの積極的な関わりにより「海外協力のつどい」を開催し、会員・ボランティア同士のつながりを深める。地域連絡会\*の活性化のため、キャラバンの受け入れのほか、活動内容についての提案を積極的に行う。児童労働をなくすためのキャンペーンを日本、バングラデシュ、ネパール3カ国で同時に実施する。インターネット上でそれぞれの活動を共有するなど、つながりを意識して取り組む。

## 3. 協力者を増やす

### (1) 会員・マンスリー・寄付

会員およびマンスリーサポーターの減少に歯止めをかける意味でも、まずはシャプラニールの認知度を上げることに注力する。また、フェアトレードに興味のある人向けのサポーター制度の創設などを検討し、選択肢を増やすことで幅広い層の参加を促す。児童労働をテーマにした寄付キャンペーンを展開し、より多くの人々へ参加を呼びかける。株主優待、クレジットカードのポイント、寄付付き自動販売機など、企業との連携による新たな寄付の仕組みを導入するための営業に力を入れる。マンスリーサポーター費を含めた寄付額は4,390万円(2013年度実績比560万円増)を目標とする。

### (2) ステナイ生活

受取人払い封筒による物品回収、募金箱と併せた回収箱の設置などを進める。社員へステナイ参加の呼びかけをしてもらうなど、企業全体としての取り組みを促すような営業活動を強化する。これまであまり関係を築けていなかった業種へもアプローチする。これらの取り組みにより、ステナイ生活全体の換金額は2,700万円(2013年度実績比300万円増)を目標とする。

## 【コラム】 出会い、交流の場

国内活動グループでインターンをしていたことをきっかけに、ユース・チーム\*にも参加するようになりました。今年の春に行った高校生・大学生向けの宿泊型イベント「ユースフォーラム」では、ルワンダ紛争を題材にしたワークショップを企画し、「ピースアド」



と呼ばれる広告を作ることを通じて、紛争と平和について議論しました。ユース・チーム\*では、一見シャプラニールとは直接関係のないテーマを扱うこともありますが、遠くの国で起きている問題を自分たちの問題として捉え、課題解決の方法を考えることが、「遠い」を「近い」にすることだと思っています。

ユースフォーラムは、国際協力に関わるきっかけの場としてだけでなく、まったく異なる背景を持つ人たちの出会いの場ともなっています。学年も考え方もさまざまな参加者が集まるこのフォーラムでは、自分の意見を伝えること、相手の意見に耳を傾けることを大切にしています。そして、出会い、交流の場としてのユースフォーラムの重要性を認識しながら、今後も企画・運営を続けていきたいと考えています。

(文/シャプラニール ユース・チーム 武田真佑子)

# 東日本大震災・復興支援

## 2013 年度 活動報告

福島県いわき市において、被災地支援活動を継続した。発災直後から、日々変化する状況の中で現地のニーズを捉え、地元の人々との協働を原則としながら活動を進めてきた。これまでバングラデシュやネパールにおいて積み重ねてきた経験に基づいた活動スタイルと言える。2013 年度は交流スペース「ぶらっと」の運営を活動の中核としながら、いわき市で支援活動を行う団体のネットワーク組織「3.11 被災者を支援するいわき連絡協議会（みんぷく\*）」のメンバーとして、地元団体との協働による被災者支援に重点を置いた取り組みを進め、深い信頼関係を築くことができた。

### 1. 借上げ住宅\*入居者への支援活動

～地域の力を活かして～

交流スペース「ぶらっと」の運営を継続し、避難生活が長期化する中で不安を抱える被災者の心のケアに努めた。1 年間の利用者数はのべ 13,349 人、手芸教室などのイベント参加者数は 755 人であった。継続的に利用する人が多くいる一方、「買い物ついでに寄ってみた」など、新しく来訪する人も絶えない状況が続いている。「いつでも迎えてくれる場所があることで安心する」といった声が多く寄せられており、被災者の心のよりどころとして一定の役割を果たしているものと考えられる。また、広いいわき市で移動手段の限られた人々も多いため、個人商店などに参加を呼びかけ、まちの交流サロン「まざり～な」の取り組みを開始。4 店舗からスタートし、2013 年度中に 14 店舗まで広がった。これはみんぷく\*の活動の一環として立ち上がった借上げ住宅\*支援部会の取り組みとして、他の NPO と協働で進めている。



交流スペース「ぶらっと」での刺しゅう教室

### 2. 避難町民といわき市民の交流促進

震災後いわき市で発足した広域自治会（原発事故による避難者が立ち上げた自治会）との連携を強化した。七夕まつりなどのイベントへの参加を呼びかけ、地元商工会や住民との交流を促進した。

### 3. 被災地からの情報発信

～現状を伝える～

いわき市から数名の被災者を招聘した交流会を 2 月に行い、20 人が参加した。8 月と 3 月に被災地を訪れるスタディツアー\*「みんなでいわき」を開催。それぞれ 11 人、25 人が参加した。

### 4. 今後の災害に備える

～これまでの経験を活かす～

国際協力 NGO のネットワーク・国際協力 NGO センター（JANIC）が中心となって行った合同レビューの取り組みに、検討委員として参加し、東日本大震災後に外部支援団体として活動した NGO の活動全体の振り返りを行った。また、今後日本国内で発生する自然災害への取り組みについてガイドラインの策定を進めたが、確定には至らなかった。また、福島での活動の経験を広く伝えるための取り組みの一環として、2015 年 3 月に仙台市で開催される防災世界会議へ向けて結成された「2015 防災世界会議日本 CSO ネットワーク（JCC2015）」に幹事団体として参加した。

# 2014年度 活動計画

活動開始から3年経つ2013年度をもって駐在員の派遣を終了し、2014年度からは活動の収束へ向け規模を大幅に縮小する予定であった。しかし、2013年度後半から実際に始まった災害・復興公営住宅の建設および用地取得の動きの中で、入居後のコミュニティづくりや住環境の整備など、不安な点が多く存在することが確認されたこと、あるいは長期的な被災者支援に取り組むために結成されたネットワーク組織（みんぷく\*）へのさらなる協力が必要であると考えられたことなどから、2014年度も駐在員の派遣を継続し、みんぷく\*としての活動を強化するための取り組みを行うこととした。

## 1. 生活再建へ向けた取り組み

交流スペース「ぶらっと」は2014年4月から規模を縮小・移転し、サークルの自主的な運営、ボランティアによる利用者対応などを促進する。一方、みんぷく\*の一員として、2013年度から始まった「まざり〜な」の協力店拡大及びフォローアップのほか、2014年度から本格化するいわき市の災害公営住宅への入居に伴うコミュニティづくり支援といった取り組みに力を入れる。また、今後始まる双葉郡からの避難者向け復興公営住宅の建設、入居に対しても、同様に取り組む。

## 2. 被災地からの情報発信

時間が経つにつれて関心が薄れていく被災地の状況を伝えるための東京での講演会、交流会を継続して実施するほか、被災地を実際に訪れ復興の状況や被災者を取り巻く環境を知ってもらうためのツアーを引き続き開催する。また、現地の農家との交流を通して被災地への関心を持ってもらい、復興に寄与するような企画を検討する。原発建設が進むバングラデシュなど世界に向けて、福島の実験を伝える機会を積極的に作っていく。

### 【コラム】何か役に立ちたい！ ～ひまわりサークルの皆さん～



交流スペース「ぶらっと」の手芸教室がきっかけで発足した「ひまわりサークル」では、週に一度おひな様や季節の花などの布小物作りを楽しんでいます。メンバーの出身地は原発事故による避難を余儀なくされ

ている大熊町や富岡町、そしていわき市とさまざま。リーダー役の木本さんは実家が浪江町にあり、震災後いわきに避難された方々の気持ちを思って「何か一緒に楽しくできたら」と、このサークルを引っ張っています。お昼にはおにぎりと一緒に、持ち寄った漬物や煮物を食べながらおしゃべりをするのを、みんなが楽しみにしています。

そんな中、メンバーが「何か手伝わせて」と月に一度発行している情報紙の発送作業を手伝いに来てくれるようになりました。また、4月に「ぶらっと」を移転する際には掃除や片付けを積極的に手伝ってくれ、とても助かりました。サークル活動を通して、これまでに以上に積極的、自主的な気持ちが生まれたように感じます。

（文／いわき事務所 佐藤緑）

## 2013 年度 活動報告

2013 年度から新たな中期ビジョン（2013～2015）が始動している。これに伴い、海外活動、国内活動、クラフトリンクでは、それぞれの活動指針など中期ビジョンとの整合性を確認し、必要な改定が行われた。

また、2013 年度は「ソーシャルプロダクツ・アワード\*」優秀賞を始め、「日経ソーシャルイニシアチブ大賞\*」ファイナリストに選定された。8 月には広島県から「ピースアワード HIROSHIMA\*」を受賞。2012 年の沖縄平和賞受賞に続き「平和」に対して、当会の長年にわたる活動が評価された。年度末には福島県社会福祉協議会\*の「東日本大震災に関する社会福祉功労表彰」を受賞した。

8 月、国際協力 NGO センター（JANIC）が実施するアカウンタビリティ・セルフチェック\*2012 を実施、組織の説明責任の課題と現状を客観的に把握することができた。

### 1. 職場環境改善と人材育成への取り組み

2013 年度の時間外労働時間は 2012 年度に比べ、全体、一人当たりともに 40% 減となった。また職場環境の改善と人材育成のため、各種規定の策定や見直しを行ったほか、職員への研修や勉強会の機会を作った。

### 2. 市民社会組織としての責任と貢献

これまでと同様、各団体や委員会に役員・職員を派遣するほか、関係諸団体の講師を計 54 回派遣した。また、インターンを 5 名受入れた。これまで 10 年間にわたり協力してきた庭野平和財団の南アジアプログラムは当初の予定通り 2013 年度をもって終了した。

南アジアでの急速な社会変化の中、当会への問い合わせや現地訪問、調査などの依頼が ODA 実施団体だけでなく、民間企業などからも来るようになってきている。こうした依頼の中には社会課題解決に向けて必要と思われるものもあるが、会としてそうした依頼に対して迅速かつ柔軟に対応出来ない状況がある。2013 年度は、そうしたコンサルティング業務を受け入れる体制をどう作るかについて事務局、理事会で議論し検討を進めた。

### 3. 総会・理事会・評議員会

各会議の実施状況は下記のとおり。

- 総会 1 回
- 理事会 10 回（2 月理事会は定足数に達せず理事懇談会とした）
- 評議員会 1 回（10 月の評議員会は定足数に達せず評議員懇談会とした）

### 4. その他

2012 年度に引き続き、駐在予定職員 1 名が、JICA 青年海外協力隊の派遣前研修を受講した。

# 2014年度 活動計画

2014年度は、社会へ波及力を及ぼすことができる活動を念頭に、行政や学校、企業との協働を進め、多くの市民によって活動を作り上げていく年とする。

## 1. 目的を掲げ社会への波及力を 最大化するための協働を推進する

これまでと同じく関係諸団体へ役員・職員を派遣する。また、中期ビジョンを遂行するため、国内外の社会課題解決に向け、行政・企業などとも積極的に協働を進める。

## 2. 人材育成への取り組み

職員がいきいきと働けるための環境を整え、事務局員の能力向上に努める。特に2013年度導入した各種事務局内制度の見直しと改善に取り組む。

2014年度は、事務局長が筒井から小松に交代する。

## 3. 新組織設立の検討

2013年度から検討を進めている、外部から当会への調査依頼や人材派遣などのコンサルティング業務に対しては、事務局本体で受ける場合、パートナーとなりうる外部団体との協働で極力対応していくが、今後に向け、新たにシャプラニールと親和性を持った新組織の設立なども視野に入れさらに検討をすすめる。

東京事務所



いわき事務所



ダッカ事務所



カトマンズ事務所



※ 写真はすべて2013年11月に撮影されたものです。

# 2013 年度決算と 2014 年度予算

## 1. 2013 年度決算

2013 年度の決算にかかる会計監査は公認会計士佐藤泰久氏により 2014 年 5 月 15 日に終了し、理事の業務執行の状況および財産の状況についての監査は同日監事により行われ、当会の会計報告書は 2014 年 3 月 31 日現在の財政状態および同日をもって終わる期間の損益の状況を適正に表示している旨の報告を受けた。

2013 年度の損益状況は、経常収益が 2 億 4,902 万円（前期比 1,316 万円減）、経常費用が 2 億 5,196 万円（前期比 201 万円減）となり、その結果、当期経常増減額は▲ 294 万円（前期比 1,115 万円減）の赤字となった。また本来は NPO 法人会計基準導入時に処理すべきであった正味財産の部の「基本金」「みらいファンド」の取り崩しを行い、1,376 万円の取崩益を計上したことから、最終損益である当期正味財産増減額は 1,082 万円の黒字となった。

### 【全体】

- 受取会費は 1,906 万円（前期比 65 万円減、3% 減）とわずかに減収。
- 受取寄付金は 6,344 万円（前期比 2,219 万円減、26% 減）と前期を大幅に下回る結果となった。2012 年度の沖繩平和賞分（1,000 万円）のほか、主要項目である一般寄付、マンスリーサポーター費、物品寄付における収益減が大きく影響した。これらの予算未達額は 1,786 万円となる。
- 受取助成金等は 7,997 万円（前期比 1,944 万円増、32% 増）と前期を大幅に上回ったものの、予算比では 624 万円の未達。
- 自己財源率は前期比 7.3 ポイント減の 69.6% となった。

### 【事業別】

- 海外活動は、受取助成金等の減収があったものの、プロジェクトの一部未実施や予算策定時のレート設定により費用が大幅に圧縮されたため、事業損益は予算比 676 万円プラスとなった。
- 国内活動は、現地の政情不安のためスタディツアーの実施を見送るなどしたため、収益・費用とも予算を下回ったが、事業損益は当初予算並みを維持した。
- クラフトリンクの売上高は、6,563 万円（前期比 778

万円減、11% 減）と前期を大きく下回ったが、インターン助成プログラムの活用や経費削減により事業損益は、かろうじて 9 万円の黒字を確保した。

- 緊急救援活動は、前期に引き続き交流スペースの運営を中心に活動を実施し、期末には 283 万円の赤字となったため、寄付引当金を同額戻し入れ補てんした。

## 2. 2014 年度予算

2014 年度予算案は経常収益、経常費用とも 2 億 5,579 万円を計上している。自己財源率は 73.6%。

### 監査報告書

2014 年 5 月 15 日

特定非営利活動法人  
シャプラニール＝市民による海外協力の会  
代表理事 岩城 幸男 殿

特定非営利活動法人  
シャプラニール＝市民による海外協力の会

監事 中田 豊一 (印)

監事 梅澤 健 (印)

特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会定款第 14 条第 4 項の規定に基づき、2013 年度における理事の業務執行の状況及び財産状況について監査した結果、適正かつ正確であることを認めます。

以上

# 2013年度 決算

## 活動計算書

2013年4月1日から2014年3月31日まで

単位 (円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会費	13,335,000		
賛助会費	5,724,650	19,059,650	
2. 受取寄付金			
一般寄付	13,297,973		
マンスリーサポート	17,952,600		
物品寄付	23,853,071		
基金・指定寄付	7,264,493		
緊急救援募金	874,629		
施設等評価益	200,000	63,442,766	
3. 受取助成金等			
外務省無償資金	34,921,002		
国際協力機構	17,892,377		
郵便貯金・簡易保険管理機構	3,672,000		
民間助成金	23,488,165	79,973,544	
4. 事業収益			
クラブ商品販売	65,632,485		
国内活動収益	3,100,088		
緊急救援活動収益	4,121,250		
知的貢献活動収益	1,934,906	74,788,729	
5. その他収益			
受取利息	24,324		
寄付引当金戻入	11,083,494		
雑収入	648,520	11,756,338	
経常収益計			249,021,027
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給与・賞与	59,119,533		
臨時雇賃金	10,914,604		
通勤手当	2,773,608		
法定福利費	10,324,380		
退職給付費用	1,935,289		
その他人件費	373,675		
人件費計	85,441,089		
(2) その他経費			
海外プロジェクト費	57,215,232		
国内活動費	4,886,625		
商品売上原価	20,780,690		
知的貢献活動費	6,750		
運搬費	1,523,525		
広報宣伝費	8,242,598		
会議費	1,451,931		
旅費交通費	9,187,609		
業務委託費	7,172,546		
手数料	2,292,337		
諸会費	13,100		
出店料	1,909,810		
商品開発費	402,611		
研修費	101,937		
地代家賃	6,305,721		
水道光熱費	353,973		
通信費	1,071,770		
消耗品費	1,385,119		
租税公課	1,018,629		
新聞図書費	34,760		
賃借料	426,551		
保険料	892,763		
修繕費	37,180		
貸倒損失等	267,183		
雑費	117,424		
その他経費計	127,097,834		
事業費計		212,538,923	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給与・賞与	17,136,531		
臨時雇賃金	1,493,350		
通勤手当	1,002,232		
法定福利費	2,640,218		
退職給付費用	558,961		
その他人件費	595,302		
人件費計	23,426,594		
(2) その他経費			
広報宣伝費	5,786,686		
会議費	952,805		
旅費交通費	490,195		
手数料	4,281,723		
諸会費	240,500		
研修費	56,000		
地代家賃	1,338,314		
水道光熱費	105,383		
通信費	1,172,504		
消耗品費	655,434		
租税公課	318,021		
新聞図書費	8,520		
賃借料	71,644		
保険料	47,779		
修繕費	16,370		
雑費	92,165		
みらいファンド繰入額	220,000		
法人税等充当金繰入	142,000		
その他経費計	15,996,043		
管理費計		39,422,637	
経常費用計			251,961,560
当期経常増減額			▲ 2,940,533
III 経常外収益			
1. 積立金取崩益		13,764,330	
経常外収益計			13,764,330
当期正味財産増減額			10,823,797
前期繰越正味財産額			83,523,567
次期繰越正味財産額			94,347,364

## 貸借対照表

2014年3月31日現在

単位 (円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	75,428,679		
売掛金(注)	4,722,651		
有価証券	5,464,669		
商品	22,950,587		
貯蔵品	1,755,714		
未収金	7,445,740		
前払費用	356,545		
仮払金	5,313,877		
前払金	10,162,530		
流動資産合計		133,600,992	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
什器備品	27,814		
有形固定資産計	27,814		
(2) 投資その他の資産			
敷金	727,450		
退職積立預金	18,968,953		
基本金積立預金	609,464		
みらいファンド積立預金	21,114,866		
投資その他の資産計	41,420,733		
固定資産合計		41,448,547	
資産合計			175,049,539
II 負債の部			
1. 流動負債			
商品券	46,000		
未払金	6,146,894		
未払費用	3,652,815		
前受金	20,780,422		
預り金	52,350		
預り社会保険料	2,361		
預り源泉所得税	113,427		
預り住民税	173,800		
未払消費税	210,800		
法人税等充当金	142,000		
賞与引当金	3,378,154		
流動負債合計		34,699,023	
2. 固定負債			
退職給付引当金	18,959,385		
指定寄付引当金	19,083,767		
みらいファンド預託金	7,960,000		
固定負債合計		46,003,152	
負債合計			80,702,175
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		83,523,567	
当期正味財産増減額		10,823,797	
正味財産合計			94,347,364
負債及び正味財産合計			175,049,539

(注) 売掛金の貸倒引当金は242,811円です。

## 計算書類の注記

### 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO 法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO 法人会計基準協議会）によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は総平均法によっています。

(2) 固定資産の減価償却方法

法人税法の規定に基づいて、有形固定資産は定率法で、無形固定資産は定額法で償却しています。

(3) 退職給付引当金の計上基準

職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき当期末に発生していると認められる金額を計上しています。なお退職給付債務は期末自己都合要支給額に基づいて計算しています

(4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理

施設の提供等の物的サービスの受け入れは、一部活動計算書に計上しています。また計上額の算定方法は「3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳」に記載しています。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

### 2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位：円)

科目	海外活動	国内活動	クラブリンク活動	緊急救援活動	知的貢献活動	事業部門	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>								
1. 受取会費	0	0	0	0	0	0	19,059,650	19,059,650
2. 受取寄付金	200,000	0	0	2,339,220	0	2,539,220	60,903,546	63,442,766
3. 受取助成金等	61,568,393	400,000	3,901,688	14,103,463	0	79,973,544	0	79,973,544
4. 事業収益	0	3,100,088	65,632,485	4,121,250	1,934,906	74,788,729	0	74,788,729
5. その他収益	8,255,496	141,750	48,676	3,215,109	0	11,661,031	95,307	11,756,338
経常収益計	70,023,889	3,641,838	69,582,849	23,779,042	1,934,906	168,962,524	80,058,503	249,021,027
<b>II 経常費用</b>								
(1) 人件費								
給与・賞与	29,721,268	3,504,687	17,939,463	6,826,520	1,127,595	59,119,533	17,136,531	76,256,064
臨時雇賃金	2,426,523	0	2,423,031	6,065,050	0	10,914,604	1,493,350	12,407,954
通勤手当	982,426	240,230	1,143,994	355,875	51,083	2,773,608	1,002,232	3,775,840
法定福利費	4,804,201	539,394	2,907,269	1,899,972	173,544	10,324,380	2,640,218	12,964,598
退職給付費用	973,007	114,736	587,146	223,485	36,915	1,935,289	558,961	2,494,250
その他人件費	265,444	5,848	29,927	70,574	1,882	373,675	595,302	968,977
人件費計	39,172,869	4,404,895	25,030,830	15,441,476	1,391,019	85,441,089	23,426,594	108,867,683
(2) その他経費								
海外プロジェクト費	57,215,232	0	0	0	0	57,215,232	0	57,215,232
国内活動費	0	4,886,625	0	0	0	4,886,625	0	4,886,625
商品売上原価	0	0	20,780,690	0	0	20,780,690	0	20,780,690
知的貢献活動費	0	0	0	0	6,750	6,750	0	6,750
運搬費	0	0	1,523,525	0	0	1,523,525	0	1,523,525
広報宣伝費	0	72	6,773,947	1,468,579	0	8,242,598	5,786,686	14,029,284
会議費	1,422,431	0	29,500	0	0	1,451,931	952,805	2,404,736
旅費交通費	5,707,830	340,539	1,123,647	1,834,093	180,960	9,187,069	490,195	9,677,264
業務委託費	0	0	7,172,546	0	0	7,172,546	0	7,172,546
手数料	1,035,321	98,922	1,044,033	83,157	30,904	2,292,337	4,281,723	6,574,060
諸会費	0	0	13,100	0	0	13,100	240,500	253,600
出店料	0	25,725	1,884,085	0	0	1,909,810	0	1,909,810
商品開発費	0	0	402,611	0	0	402,611	0	402,611
研修費	91,137	7,300	1,500	2,000	0	101,937	56,000	157,937
地代家賃	1,093,590	274,492	1,405,294	3,444,350	87,995	6,305,721	1,338,314	7,644,035
水道光熱費	86,114	21,615	110,658	128,657	6,929	353,973	105,383	459,356
通信費	163,377	53,024	405,226	433,902	16,241	1,071,770	1,172,504	2,244,274
消耗品費	316,979	87,041	596,295	359,324	25,480	1,385,119	655,434	2,040,553
租税公課	64,550	35,095	732,866	165,171	20,947	1,018,629	318,021	1,336,650
新聞図書費	0	0	0	34,760	0	34,760	8,520	43,280
賃借料	58,543	14,694	75,230	273,373	4,711	426,551	71,644	498,195
保険料	766,959	832	86,955	37,750	267	892,763	47,779	940,542
修繕費	13,377	3,358	17,190	2,179	1,076	37,180	16,370	53,550
貸倒損失等	0	0	267,183	0	0	267,183	0	267,183
雑費	16,794	17,132	12,827	70,271	400	117,424	92,165	209,589
みらいファンド繰入額	0	0	0	0	0	0	220,000	220,000
法人税等充当金繰入	0	0	0	0	0	0	142,000	142,000
その他経費計	68,052,234	5,866,466	44,458,908	8,337,566	382,660	127,097,834	15,996,043	143,093,877
経常費用計	107,225,103	10,271,361	69,489,738	23,779,042	1,773,679	212,538,923	39,422,637	251,961,560
当期経常増減額	▲ 37,201,214	▲ 6,629,523	93,111	0	161,227	▲ 43,576,399	40,635,866	▲ 2,940,533
<b>III 経常外収益</b>								
1. 積立金取崩益	0	0	0	0	0	0	13,764,330	13,764,330
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	13,764,330	13,764,330
当期正味財産増減額	▲ 37,201,214	▲ 6,629,523	93,111	0	161,227	▲ 43,576,399	54,400,196	10,823,797

### 3. 施設の提供等の物的サービスの受け入れの内訳

(単位：円)

内容	金額	算定方法	備考
寄付マイルによる搭乗券の無償利用	200,000	利用時の航空運賃市価を参考に算出	計算書に計上
インターネット広告無償掲載	12,205,991	提供元企業の定価 USD 118,735.32	計算書に計上せず（注記のみ）1USD = 102.80JPY



#### 4. 使途等が制約された寄付等の内訳

使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。当法人の正味財産は 94,347,364 円ですが、そのうち 42,416,759 円は緊急救援活動に、13,154,866 円は新規事業（みらいファンド）に使用される財産です。したがって使途が制約されていない正味財産は 38,775,739 円です。

(単位：円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
いきいき女性基金	0	1,664,580	1,664,580	0	
子どもの夢基金	0	3,398,952	3,398,952	0	
指定寄付	0	2,200,961	2,200,961	0	
緊急救援募金	42,416,759	2,339,220	2,339,220	42,416,759	震災支援活動に係る物品寄付を含む
みらいファンド	0	13,154,866	0	13,154,866	みらいファンド寄付分
外務省・日本NGO連携無償資金協力贈与 「住民主体の災害リスク削減プロジェクト」	0	11,971,378	11,971,378	0	前期前受金としていたものを当期収益計上
外務省・日本NGO連携無償資金協力贈与 「ダッカ、チッタゴンにおける家事使用人として働く少女支援プロジェクト（第3年次）」	0	14,529,648	14,529,648	0	同上
外務省・日本NGO連携無償資金協力贈与 「カトマンズ盆地におけるレストラン児童労働の予防と削減プロジェクト（第2年次）」	0	9,678,877	9,678,877	0	同上
外務省・日本NGO連携無償資金協力贈与 「住民主体の災害リスク削減プロジェクト（第2年次）」	0	1,074,226	1,074,226	0	当期受入額 12,648,149 円のうち、11,573,923 円は前受金として貸借対照表に計上
外務省・日本NGO連携無償資金協力贈与 「カトマンズ盆地におけるレストラン児童労働の予防と削減プロジェクト（第3年次）」	0	846,873	846,873	0	当期受入額 9,971,254 円（USD 97,547.00）のうち、9,124,381 円（USD 89,262.19）は前受金として貸借対照表に計上
郵便貯金・簡易保険管理機構 国際ボランティア貯金寄附金 「障害者のリハビリ支援及び障害者グループの育成 [バングラデシュ]」	0	3,672,000	3,672,000	0	
UAゼンセン同盟 「バングラデシュ農村部における児童教育プログラム」	0	2,000,000	2,000,000	0	
日本労働組合総連合会（連合）・愛のカンパ 「バングラデシュ・ノルシンディ県における障害者のエンパワメント支援事業」	0	1,500,000	1,500,000	0	
大阪コミュニティ財団 ユース、キャラバン事業助成	0	400,000	400,000	0	
トヨタ財団 アジア隣人プログラム	0	1,583,014	1,583,014	0	前期前受金分 733,014 円を含む
インターナショナルメディカルコープス 東日本大震災支援活動助成	0	12,216,000	12,216,000	0	当期受入額 12,216,000 円のうち、3,054,000 円は次期入金予定であるため、未収金として貸借対照表に計上
中央共同募金会・赤い羽根 「災害ボランティア・NPOサポート募金」 東日本大震災支援活動助成	0	1,887,463	1,887,463	0	
外務省 NGO インターン・プログラム	0	3,901,688	3,901,688	0	
合計	42,416,759	88,019,746	74,864,880	55,571,625	

(参考) JICA 草の根技術協力事業（草の根パートナー型）の「住民の能力強化を通じた災害リスク軽減プロジェクト」（ネパール）として 17,892,377 円を受入れ、全額使用しました。

#### 5. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
什器備品	499,800			499,800	471,986	27,814
無形固定資産						
電話加入権	74,984		74,984	0	0	0
合計	574,784	0	74,984	499,800	471,986	27,814

#### 6. みらいファンドの増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	減少	増加	期末残高
みらいファンド預託金	8,280,000	3,020,000	2,700,000	7,960,000
みらいファンド寄付	12,934,866	13,154,866	220,000	0
合計	21,214,866	16,174,866	2,920,000	7,960,000

(注) みらいファンド寄付は取り崩した為、次年度以降は使途等が制約された寄付等の内訳にて表示します。

#### 7. 指定寄付引当金の増減内訳

(単位：円)

内容	期首残高	減少	増加	期末残高
先住民族支援プロジェクト	17,649,677	8,251,777	0	9,397,900
東日本大震災支援活動	12,517,584	2,831,717	0	9,685,867
合計	30,167,261	11,083,494	0	19,083,767

# 財産目録

2014年3月31日現在

(単位:円)

科目		金額		
<b>I 資産の部</b>				
1. 流動資産				
現金預金	現金手許有高	254,194		
	ゆうちょ銀行	7,097,016		
	三菱東京UFJ銀行	57,341,594		
	三井住友銀行	10,641,916		
	シティバンク	93,959		
売掛金(注)		4,722,651		
有価証券	野村證券	5,464,669		
商品		22,950,587		
貯蔵品	切手等	1,755,714		
未収金	福島県	4,121,250		
	インターナショナル・メディカル・コープス(IMC)	3,054,000		
	新常磐交通	89,600		
	その他	180,890		
前払費用	日新火災海上保険	18,945		
	三井住友海上保険	292,402		
	ファーストサーバ	45,198		
仮払金	次期システム関連費用	4,752,868		
	旅費仮払等	561,009		
前払金	カトマンス事務所	9,124,381		
	パートナー団体プロジェクト費繰越	751,510		
	その他	286,639		
流動資産合計			133,600,992	
2. 固定資産				
(1) 有形固定資産				
什器備品	電話設備	27,814		
有形固定資産計		27,814		
(2) 投資その他の資産				
敷金	早稲田奉仕団	327,450		
	イトーヨーカ堂	400,000		
退職積立預金	三菱東京UFJ銀行	18,968,953		
基本金積立預金	三菱東京UFJ銀行	609,464		
みらいファンド積立預金	三菱東京UFJ銀行	21,114,866		
投資その他の資産計		41,420,733		
固定資産合計			41,448,547	
資産合計				175,049,539
<b>II 負債の部</b>				
1. 流動負債				
商品券		46,000		
未払金	ヤマト運輸	235,419		
	クロスロード	678,491		
	日本郵便	344,345		
	イトーヨーカ堂	105,189		
	新宿年金事務所	833,110		
	外務省	3,180,000		
	その他	770,340		
未払費用	未払給与	3,652,815		
前受金	外務省	20,698,304		
	手工芸品関連	82,118		
預り金		52,350		
預り社会保険料		2,361		
預り源泉所得税		113,427		
預り住民税		173,800		
未払消費税		210,800		
法人税等充当金		142,000		
賞与引当金		3,378,154		
流動負債合計			34,699,023	
2. 固定資産				
退職給付引当金		18,959,385		
指定寄付引当金	先住民族支援プロジェクト	9,397,900		
	東日本大震災支援活動	9,685,867		
みらいファンド預託金		7,960,000		
固定負債合計			46,003,152	
負債合計				80,702,175
正味財産				94,347,364

(注) 売掛金の貸倒引当金は242,811円です。

# 2014年度 予算

## [全体損益]

(単位:千円)

	2013年度 予算 A	2013年度 決算 B	予実差異 B-A	2014年度 予算 C	予算増減 D:C-A	同増減比 D/A	実績増減 E:C-B	同増減比 E/B
1. 受取会費	19,000	19,060	60	19,000	0	0%	▲60	0%
2. 受取寄付金	79,340	63,443	▲15,897	71,520	▲7,820	-10%	8,077	13%
3. 受取助成金等	86,222	79,974	▲6,249	67,604	▲18,618	-22%	▲12,369	-15%
4. 事業収益	86,835	74,789	▲12,046	85,814	▲1,021	-1%	11,025	15%
5. その他収益	19,572	25,521	5,948	11,860	▲7,712	-39%	▲13,661	-54%
収益計	290,970	262,785	▲28,184	255,798	▲35,171	-12%	▲6,987	-3%
1. 事業費								
(1) 人件費	87,779	85,441	▲2,338	74,571	▲13,208	-15%	▲10,870	-13%
(2) その他経費	155,300	127,098	▲28,202	139,592	▲15,709	-10%	12,494	10%
2. 管理費								
(1) 人件費	23,312	23,427	114	24,172	860	4%	746	3%
(2) その他経費	24,578	15,996	▲8,582	17,464	▲7,114	-29%	1,468	9%
費用計	290,970	251,962	▲39,008	255,798	▲35,171	-12%	3,837	2%
当期正味財産増減額	0	10,824	10,824	0	▲0	-100%	▲10,824	-100%

## [事業別損益]

(単位:千円)

	2013年度 予算 A	2013年度 決算 B	予実差異 B-A	2014年度 予算 C	予算増減 D:C-A	同増減比 D/A	実績増減 E:C-B	同増減比 E/B
受取寄付金	240	200	▲40	120	▲120	-50%	▲80	-40%
受取助成金等	68,635	61,568	▲7,067	57,604	▲11,030	-16%	▲3,964	-6%
事業収益	0	0	0	1,055	1,055	-	1,055	-
その他収益	8,200	8,255	55	8,730	530	6%	475	6%
収益計	77,075	70,024	▲7,051	67,509	▲9,565	-12%	▲2,514	-4%
人件費	39,075	39,173	98	34,244	▲4,831	-12%	▲4,929	-13%
海外プロジェクト費	72,291	57,215	▲15,076	68,047	▲4,245	-6%	10,831	19%
その他の経費	9,674	10,837	1,164	8,369	▲1,304	-13%	▲2,468	-23%
費用計	121,040	107,225	▲13,815	110,660	▲10,380	-9%	3,435	3%
海外活動 損益	▲43,965	▲37,201	6,764	▲43,150	815	-2%	▲5,949	16%
受取寄付金	0	0	0	0	0	-	0	-
受取助成金等	900	400	▲500	1,000	100	11%	600	150%
事業収益	6,635	3,100	▲3,535	7,520	885	13%	4,420	143%
その他収益	0	142	142	0	0	-	▲142	-100%
収益計	7,535	3,642	▲3,893	8,520	985	13%	4,878	134%
人件費	4,687	4,405	▲282	3,992	▲695	-15%	▲413	-9%
その他の経費	9,706	5,866	▲3,840	8,660	▲1,046	-11%	2,794	48%
費用計	14,393	10,271	▲4,122	12,652	▲1,741	-12%	2,381	23%
国内活動 損益	▲6,858	▲6,630	228	▲4,132	2,726	-40%	2,498	-38%
受取助成金等	0	3,902	3,902	0	0	-	▲3,902	-100%
事業収益	76,600	65,632	▲10,968	71,500	▲5,100	-7%	5,868	9%
その他収益	0	49	49	0	0	-	▲49	-100%
収益計	76,600	69,583	▲7,017	71,500	▲5,100	-7%	1,917	3%
人件費	25,361	25,031	▲330	23,926	▲1,435	-6%	▲1,105	-4%
売上原価	24,282	20,781	▲3,501	22,885	▲1,397	-6%	2,104	10%
その他の経費	25,908	23,678	▲2,229	24,608	▲1,300	-5%	929	4%
費用計	75,550	69,490	▲6,061	71,418	▲4,132	-5%	1,929	3%
クラブトリンク活動 損益	1,050	93	▲956	82	▲968	-92%	▲11	-12%
受取寄付金	500	2,339	1,839	500	0	0%	▲1,839	-79%
受取助成金等	16,688	14,103	▲2,584	9,000	▲7,688	-46%	▲5,103	-36%
事業収益	0	4,121	4,121	4,239	4,239	-	118	3%
その他収益	11,322	3,215	▲8,107	3,080	▲8,242	-73%	▲135	-4%
収益計	28,510	23,779	▲4,731	16,819	▲11,691	-41%	▲6,960	-29%
人件費	16,781	15,441	▲1,339	10,461	▲6,320	-38%	▲4,980	-32%
その他の経費	11,729	8,338	▲3,391	6,256	▲5,473	-47%	▲2,082	-25%
費用計	28,510	23,779	▲4,731	16,717	▲11,793	-41%	▲7,062	-30%
緊急救援活動 損益	▲0	0	0	102	102	-31875100%	102	-
事業収益	3,600	1,935	▲1,665	1,500	▲2,100	-58%	▲435	-22%
収益計	3,600	1,935	▲1,665	1,500	▲2,100	-58%	▲435	-22%
人件費	1,875	1,391	▲484	1,948	73	4%	557	40%
その他の経費	1,711	383	▲1,328	767	▲944	-55%	384	100%
費用計	3,586	1,774	▲1,812	2,715	▲871	-24%	941	53%
知的貢献活動 損益	14	161	147	▲1,215	▲1,229	-8779%	▲1,376	-854%
受取会費	19,000	19,060	60	19,000	0	0%	▲60	0%
受取寄付金	78,600	60,904	▲17,696	70,900	▲7,700	-10%	9,996	16%
受取助成金等	0	0	0	0	0	-	0	-
事業収益	0	0	0	0	0	-	0	-
その他収益	50	13,860	13,810	50	0	0%	▲13,810	-100%
収益計	97,650	93,823	▲3,827	89,950	▲7,700	-8%	▲3,873	-4%
人件費	23,312	23,427	114	24,172	860	4%	746	3%
その他の経費	24,578	15,996	▲8,582	17,464	▲7,114	-29%	1,468	9%
費用計	47,890	39,423	▲8,468	41,636	▲6,254	-13%	2,214	6%
管理部門 損益	49,760	54,400	4,641	48,314	▲1,446	-3%	▲6,086	-11%

(注) 2013年度の経常外収益については、便宜上、管理部門のその他収益に含めて表示しています。

# 2014 年度役員一覧

## 代表理事

岩城幸男（会社員）

## 監事

梅澤健（弁護士）

中田豊一（参加型開発研究所 代表）

## 理事

秋吉恵（早稲田大学 教員）

今田克司（一般財団法人 CSO ネットワーク 代表理事）

日下部尚徳（大妻女子大学 教員）

小松豊明（シャプラニール 事務局長 [2014 年 7 月より]）

坂口和隆（特定非営利活動法人日本 NPO センター）

長畑誠（一般社団法人あいあいネット 代表理事、明治大学  
公共政策大

田辺洋一郎（PR コンサルタント、ボランティア）

長澤恵美子（経済団体職員）

森田恵（キャリアカウンセラー、ボランティア）

山崎みどり（全国友の会中央部 中央委員）

## 評議員

明石祥子（フェアトレードシティくまもと推進委員会代表  
理事）

雨森孝悦（日本福祉大学 教員）

磯野昌子（かながわ開発教育センター 理事）

大橋正明（聖心女子大学 教員）

川口恭子（保健師）

黒田かをり（一般財団法人 CSO ネットワーク事務局長、  
理事）

桑原安子（全国友の会中央部中央委員）

後藤浩二（スープの会 世話人）

定松栄一（公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパ  
ン事業本部長）

里見駿介（財団法人海外職業訓練協会 国際アドバイザー）

椎名麻衣（シャプラニール ユース・チーム）

城千聡（中央共同募金会）

田中治彦（上智大学 教授、特定非営利活動法人開発教育  
協会 理事）

田中政行（会社員、ボランティア）

筒井哲朗（シャプラニール 事務局長 [2014 年 6 月まで]）

手島大輔（セルザチャレンジ 代表、株式会社トライフ 代  
表取締役）

永井一史（アート・ディレクター）

長坂寿久（逗子フェアトレードタウンの会）

福井崇人（NPO 2025PROJECT 代表理事）

福澤郁文（株式会社デザイン FF 代表、グラフィックデザ  
イナー）

モンズルホック（ジャーナリスト）

山内明子（日本生活協同組合連合会 執行役員）

横田能洋（特定非営利活動法人茨城 NPO センター・コモ  
ンズ常務理事、事務局長）

吉田まさ子（シャプラニールいわき連絡会 代表）

吉田博（早稲田奉仕園 専務理事）

吉富志津代（多言語センター FACIL 理事長、FM わいわい  
代表理事、大阪大学教員）



# 付表

## ■ 助成金関連一覧

### 【バングラデシュ】

外務省 日本 NGO 連携無償資金協力：家事使用人として働く少女支援、災害リスク軽減のためのコミュニティ開発

独立行政法人郵便貯金 簡易生命保険管理機構 国際ボランティア貯金寄附金：障害者のエンパワメント支援

日本労働組合総連合会（連合）愛のキャンパ：障害者のエンパワメント支援

UA ゼンセン ボランティア活動：中洲（チョール\*）における児童教育

### 【ネパール】

外務省 日本 NGO 連携無償資金協力：住民主体の洪水リスク削減プロジェクト、カトマンズ盆地におけるレストラン児童労働の予防と削減への取り組み

独立行政法人国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業：住民主体の洪水リスク削減プロジェクト

### 【日本】

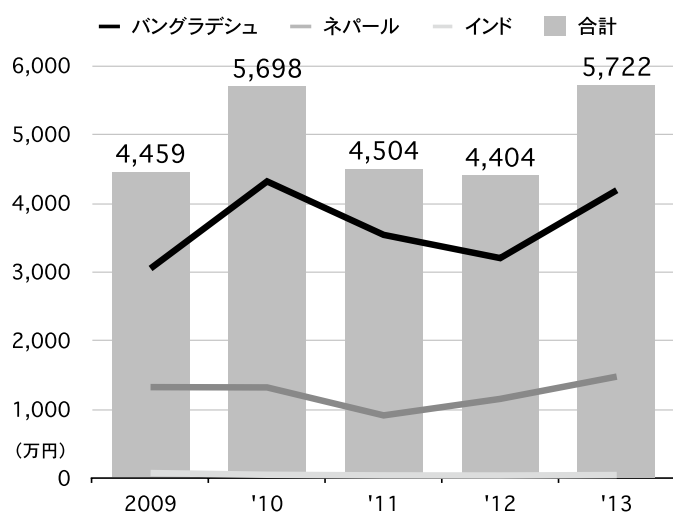
公益財団法人トヨタ財団 アジア隣人プログラム：シャプラニールにおける「国際 NGO と現地 NGO の役割と関係」の検証と記録、日本 NGO とのシェア（国際会議の実施など）

外務省 NGO インターン・プログラム

## ■ 海外プロジェクト費

（単位：万円）

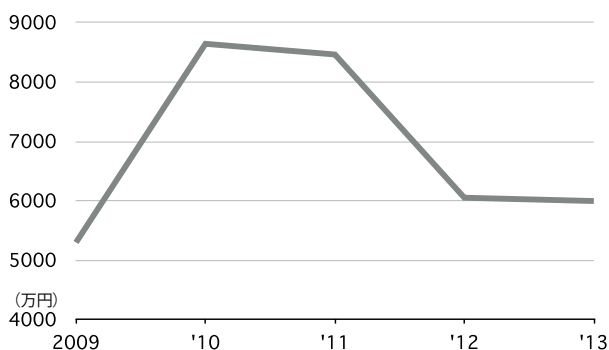
年度	2009	'10	'11	'12	'13
バングラデシュ	3,053	4,319	3,542	3,204	4,191
ネパール	1,328	1,324	917	1,157	1,481
インド	79	54	45	43	50
合計	4,459	5,698	4,504	4,404	5,722



## ■ 助成金等による収入

(単位：万円)

年度	2009	'10	'11	'12	'13
助成金額	5,300	8,644	8,464	6,053	5,997



## ■ パートナー団体一覧 (2014年)

### 【バングラデシュ】パートナー団体

団体名	正式名称	団体概要	プロジェクト	活動地域	活動規模
PAPRI	Poverty Alleviation through Participatory Rural Initiatives	1999年、シャプラニールから独立してできた現地NGO。首都ダッカの北東に位置するノルシンディ県に活動拠点をもつ中規模NGO。スタッフ数は128人、シャプラニールも含めた全体の年間予算規模はおよそ4,800万円。	中洲(チョール*)における児童教育	ノルシンディ県ライプーラ郡の2つのユニオン*	年間予算：約190万円 担当スタッフ数：3人 裨益者数：約300人
			障害者のエンパワメント*支援	ノルシンディ県ライプーラ郡とショドル郡	年間予算：約370万円 担当スタッフ数：8人 裨益者数：約600人
JJS	Jagrata Juba Shangha	1985年設立。バングラデシュ南西部のクルナ県を中心に活動する現地NGO。社会的な差別を受けている人々や経済的な貧困層への支援を行う。年間予算規模は約2億9,900万円、スタッフ数約195人。	災害リスク軽減のためのコミュニティ開発	バゲルハット県ショロンコラ郡サウスカリ・ユニオン*	年間予算：約620万円 担当スタッフ数：14人 裨益者数：約2,200人
Phulki		1991年設立。縫製工場内に保育所を導入するなど、農村部から都市部へ出てきた女性への支援に取り組む。年間予算規模は約6,500万円、スタッフ数約190人。	家事使用人として働く少女支援	ダッカ市内4つの地区	年間予算：約370万円 担当スタッフ数：11人 裨益者数：約1,000人
YPSA	Young Power in Social Action	1985年に、若者たちによって設立された現地NGO。チッタゴン県を拠点に多様な社会的な課題の解決を目指して活動している。年間予算規模約2億8,000万円、スタッフ数約1,685人。		チッタゴン市内2つの地区	年間予算：約290万円 担当スタッフ数：9人 裨益者数：約200人
GBK	Gram Bikash Kendro	1993年、ディナジプール県で社会的な問題に強い関心をもつ若者たちによって設立。先住民、ダリット、女性、子ども、障害者を対象に、社会的変化を促すために活動を行う。年間予算規模は約1億3,000万円、スタッフ数約530人。	バングラデシュ北西部先住民族の子どもたちの文化教育支援	ディナジプール県中央郡の3つのユニオン*	年間予算：約280万円 担当スタッフ数：4人 裨益者数：約545人
ジュマ・ネット		2002年3月、チッタゴン丘陵地帯の紛争解決と平和促進のために、関心のある有志や団体が集まり、設立。年間予算規模は約1,700万円、スタッフ数2人。	チッタゴン丘陵地帯における先住民族支援活動	チッタゴン丘陵	年間予算：約500万円 担当スタッフ数：2人 裨益者数：民族対立で苦しむジュマ*の人々約60万人

## 【ネパール】パートナー団体

団体名	正式名称	団体概要	プロジェクト	活動地域	活動規模
RRN	Rural Reconstruction Nepal	1989年設立。年間予算規模約5億6,000万円、約400人のスタッフとボランティアを抱えるネパール最大のNGOの一つ。女性、子ども、ダリットおよびエスニックグループといった非常に厳しい状況にある人々のエンパワメント*を目指した活動を展開。	住民主体の洪水リスク削減プロジェクト	チトワン郡の4つのVDCと1つの市	年間予算：約800万円 担当スタッフ数：10人 裨益者数：約6,300人
CWIN	Child Workers in Nepal Concerned Center	1987年、ネパールの大学生によって設立。1992年にはNGOとして登録、ネパールにおいて子どもの権利促進のために活動する団体としてはパイオニア的存在。ネパール全75郡中30郡で活動し、スタッフ数約150人、年間予算規模は約9,000万円。	カトマンズ盆地におけるレストラン児童労働の予防と削減への取り組み	カトマンズ市、ラリトプール市、キルティプール市	年間予算：約470万円 担当スタッフ数：6人 裨益者数：約10,000人
NSET	National Society for Earthquake Technology – Nepal	2020年までに、地震に対して安全な地域社会を作ることを目指し、地震防災の専門家有志によって1993年に設立されたNGO。ネパールのみならず、南アジア各国へも専門家を派遣する、地震防災分野の代表的な組織。	家庭内のできる地震防災行動に関するキャンペーン（仮称）	カトマンズ市、ラリトプール市	年間予算：約220万円 担当スタッフ数：3人 裨益者数：カトマンズ市とラリトプール市に住む中低所得者層

## 【インド】パートナー団体

団体名	正式名称	団体概要	プロジェクト	活動地域	活動規模
DRSCS	Development Research Communication & Service Centre	西ベンガル州内12の県で活動する現地NGO。様々な社会的な課題の解決に取り組む個人や団体のための情報リソースセンターとして1982年に設立。1992年からは持続可能な農業や自然資源管理を中心に活動している。	西ベンガル州北東部の紅茶園スラム居住者支援	西ベンガル州ジョリパイグリ県	年間予算：50万円 担当スタッフ数：2人 裨益者数：約1,200人
SANSAD	South Asian Network for Social and Agricultural Development	持続可能な暮らし、環境に配慮した農業、食糧の自給自足、公平な貿易を通じた市民社会の強化などを目的に2004年設立。創設者のアニール氏は長年、インドのNGOネットワーク組織の事務局長を務めていた。	持続可能な農法の普及による食糧安全保障の強化支援	ウッタルプラデーシュ州サハランプル県	年間予算：約500万円 担当スタッフ数：6人 裨益者数：約500人

## ■ 手工芸品生産団体一覧

国	団体名	正式名称	主な取り扱い商品
ネパール	ACP ダッカ・ウィーヴズ マハグティ サナ・ハスタカラ WSDO	Association for Craft Producers Dhaka Weaves MAHAGUTHI SANA HASTAKALA Women's Skill Development Organization	フェルト、ニット製品 ダッカ織 石けん、手織布衣料、ニット製品 陶器、アロー製品 手織布バッグ/小物
バングラデシュ	アーロン ジュート・ワークス クムディニ プロクリティ サリー・アン プロボルトナ YWCA	BRAC/Aarong CORR The Jute Works Kumudini Welfare Trust of Bengal Prokritee Sally Ann UBINIG/Prabartana YWCA Bangladesh	ノクシカタ・タペストリー/小物 ジュートバッグ/サンダル、素焼 刺しゅう製品 She ソープ、レジバッグ、手すき紙 クリスマス・オーナメント 手織布衣料、手ぬぐい マスコット



## ■ クラフトリンク仕入

(単位：USドル)

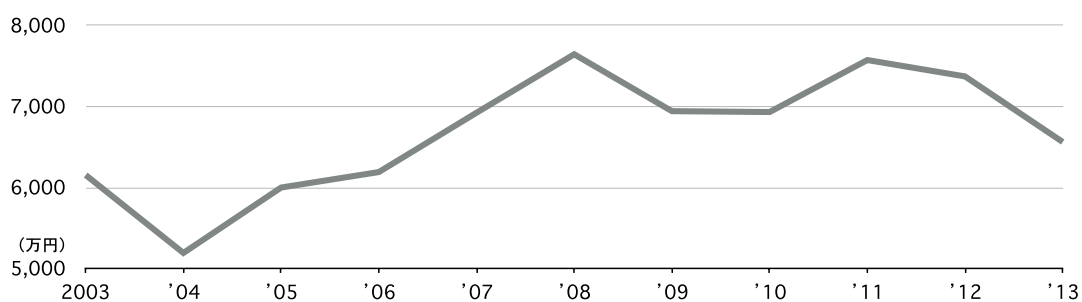
年度	2009	'10	'11	'12	'13
海外仕入額	174,330	175,529	204,096	183,349	226,510

## ■ クラフトリンク売上

### クラフトリンク売上総額

(単位：万円)

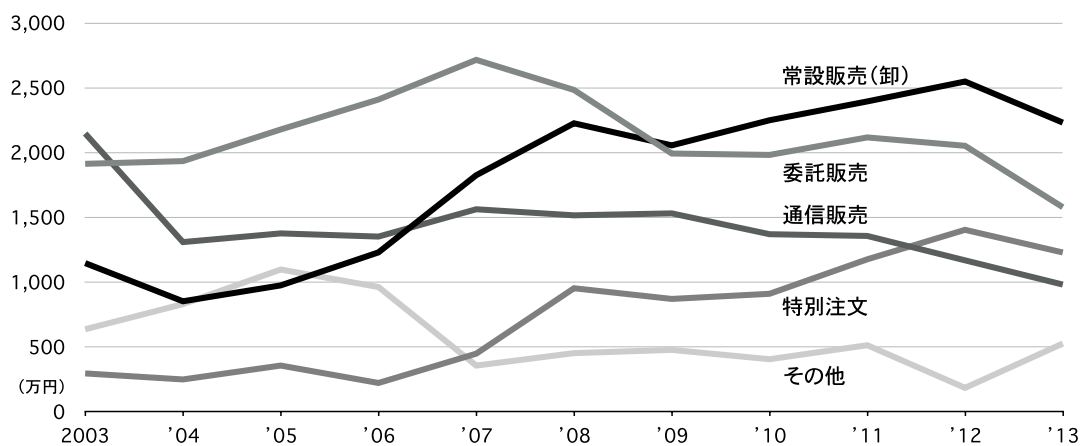
年度	2003	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13
売上高	6,155	5,193	6,001	6,192	6,924	7,647	6,944	6,933	7,575	7,373	6,563



### 売上形態別売上

(単位：万円)

年度	2003	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13
通信販売	1,916	1,937	2,181	2,412	2,718	2,486	1,996	1,985	2,120	2,055	1,582
常設販売(卸)	1,150	856	979	1,233	1,828	2,229	2,059	2,252	2,398	2,551	2,234
委託販売	2,150	1,313	1,380	1,355	1,566	1,519	1,534	1,373	1,360	1,172	985
特別注文	299	253	360	226	452	957	874	914	1,180	1,407	1,232
その他	640	834	1,101	966	360	456	481	409	517	188	530



### She ソープ 売上

(単位：万円)

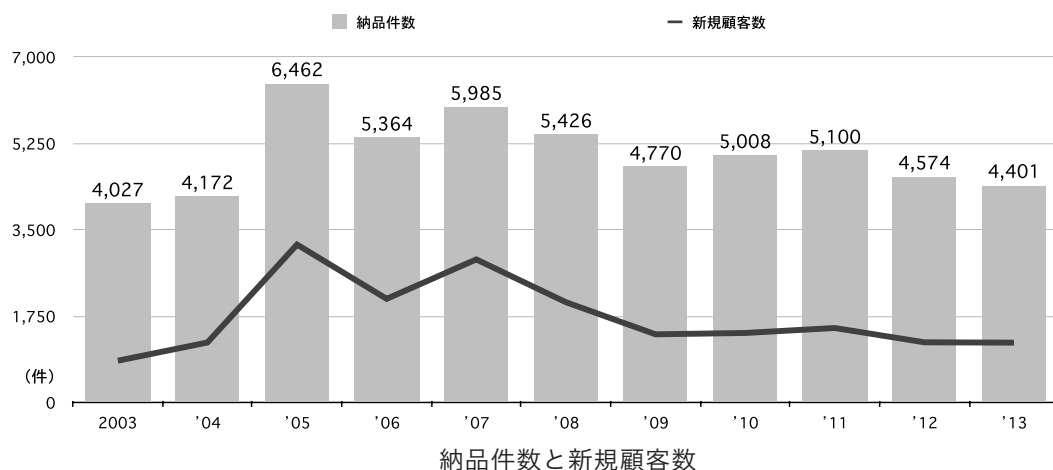
年度	2011	'12	'13
売上高	649	857	832

### 常設店舗数

(単位：件)

年度	2010	'11	'12	'13
店舗数	207	351	402	358
新規店舗数	55	111	117	63

## ■ クラフトリンク顧客



## ■ 国内カレンダー

2013 年度報告		2014 年度 (予定)
8、10日 国際協力におけるパートナーシップに関する国際会議 20、21日 アースデー 出展 全国キャラバン (フェアトレード・20日～6月2日)	4月	児童労働寄付キャンペーン (～6月) 19、20日 アースデー 出店
ソーシャルプロダクツ・アワード* 受賞 日経ソーシャルイニシアチブ大賞* ファイナリスト 12日 評議員会 全国キャラバン (児童労働・18日～6月16日)	5月	11日 評議員会 中高生ネパールツアー報告会
「タンスのこやし」で国際貢献キャンペーン (～7月31日) ストップ! 児童労働キャンペーン 2013 参加 22日 会員総会 26日 トークライブ「ほうきではなく、本をください」	6月	ストップ! 児童労働キャンペーン 2014 参加 21日 会員総会
	7月	中高生ネパールツアー報告会
ピースアワード HIROSHIMA* 受賞 8日～10日 いわき訪問ツアー 8日～11日 中学生・高校生フォーラム	8月	8日 -11日 中学生・高校生フォーラム 上旬 いわき訪問ツアー
4日 カラフル・ループ スペシャルイベント	9月	下旬 評議員会
大掃除キャンペーン 5日 評議員会 9日、10日 国際協力・交流フェスティバル 出店	10月	マンスリーサポーターキャンペーン (～12月) 11日～12日 海外協力フォーラム 東日本大震災被災地支援活動関連講演会
大掃除キャンペーン (～2月) 中旬 ソーシャルビジネスセミナー	11月	大掃除キャンペーン
年賀はがきキャンペーン (～3月31日) 古本で被災地支援! ステナイ BOOK キャンペーン (～1月31日) 「タンスのこやし」でできる国際貢献キャンペーン (～1月31日) 5日～8日 渋谷ヒカリエ「Q マルシェ」出展 21日～29日 ネパール・スタディツアー*	12月	年賀はがきキャンペーン ネパールスタディツアー*
	1月	
5日～7日 インターナショナル・ギフト・ショー 2014 春 出店 22日 交流スペース「ぶらっと」がやってきた ～被災者の話を直接聴く会～	2月	東日本大震災被災地支援活動関連講演会
東日本大震災に関する社会福祉功労表彰 受賞 26日～4月2日 中高生スタディツアー* 21日～22日 いわき訪問ツアー 23日～24日 The ★ Forum	3月	いわき訪問ツアー 中学生・高校生スタディツアー*

## ■ 各地域連絡会\*の主な活動

### シャプラニール仙台ポンドゥの会

- ・ シャプラニール北日本・地域連絡会\*の集い（武蔵野、栃木、山形、鶴岡、仙台の地域連絡会\*の集まり 4月7日）
- ・ シャプラニール全国キャラバン（5月18日）
- ・ 仙台国際センター「地球フェスタ」（クラフト販売 9月16日）
- ・ 「ふくしま市民発電」新妻香織さんを囲むつどい（新妻さんのお話と交流会 1月18日）

### シャプラニールとちぎ架け橋の会

- ・ 花みずきフェスタ（クラフト販売 4月28日）
- ・ フェスタ my 宇都宮（クラフト販売 5月19日）
- ・ 松ヶ峰教会バザー（クラフト販売 5月26日）
- ・ 全国キャラバン（6月9日）
- ・ 共催 グローバルセミナー（ワークショップを開催 7月6日）
- ・ TV コンテスト民族の踊り（クラフト販売 10月27日）
- ・ 宮の市「馬車道青空市」（クラフト販売 11月3日）
- ・ 第4回フェアトレードまつり（宇都宮バンバ市民広場 11月9日）
- ・ 宇都宮大学大学祭（クラフト販売、フリーマーケット模擬店 11月23日、24日）
- ・ 新年会（ゲストスピーカーによる講話、交流会 1月18日）
- ・ 定期会（毎月一回）
- ・ 通信 KAKEHASHI（季刊）発行
- ・ 「とちぎフェアトレード産品取扱店」MAP（第4版）発行
- ・ 学生サークルカケハシーズによる「まちチョコ」企画販売

### シャプラニール地域連絡会むさしの

- ・ 雑誌『教育』（教育科学研究会編集、かもがわ出版発行）2013年12月号 執筆「世界の子ども・若者事情 26 バングラデシュ ストリートで生きる子どもたち」
- ・ 雑誌『教育』（同上）2014年1月号 執筆「世界の子ども・若者事情 27 バングラデシュ 参加型支援を受け 夢をかなえて」
- ・ 横浜市立平楽中学校「国際教育」のゲスト講師（5月10日）
- ・ フェリス女学院大学文学部 講義「シャプラニール流 人生を変える働き方」（11月14日）

### シャプラニール金沢連絡会

- ・ 人形劇「ダッカのストリートチルドレン」（8月30日）

### シャプラニール地域連絡会関西

#### （せつつ・大阪・南大阪・兵庫の4つが合同で実施）

- ・ シャプラニール全国キャラバン（6月2日）
- ・ 大阪市民向講座「すぐに始められる海外協力の方法～南アジアの児童労働支援から学ぶ」（6月29日）
- ・ 大阪府立千里高校 授業「シャプラニール活動紹介」（7月12日）
- ・ 共催 映画上映会「パレンタイン一揆」（8月31日）
- ・ 大阪府立福井高校 授業「シャプラニールの活動紹介」など（11月21日、28日）
- ・ 大阪市民向講座「シャプラニールのフェアトレード紹介」（2月14日）
- ・ 9条世界会議・関西（クラフト販売 10月14日）

## ■ 各ボランティアグループの主な活動

### クシクシ倶楽部\*

- ・ チャリティ BBQ（昭和記念公園、7月28日）
- ・ チャリティスポーツ大会（新宿NPO協働推進センター 11月9日）
- ・ earth garden "X mas"（クラフト販売 12月7日、8日）
- ・ 海外協力のつどい2014 実行委員会発足、企画準備（2014年10月11日、12日実施予定）

### シャプラニール劇団\*

- ・ バングラデシュで家事使用人として働く少女をテーマとしたシナリオの作成
- ・ 海外協力のつどい2014 実行委員会参加（2014年10月11日、12日実施予定）

### ユース・チーム\*

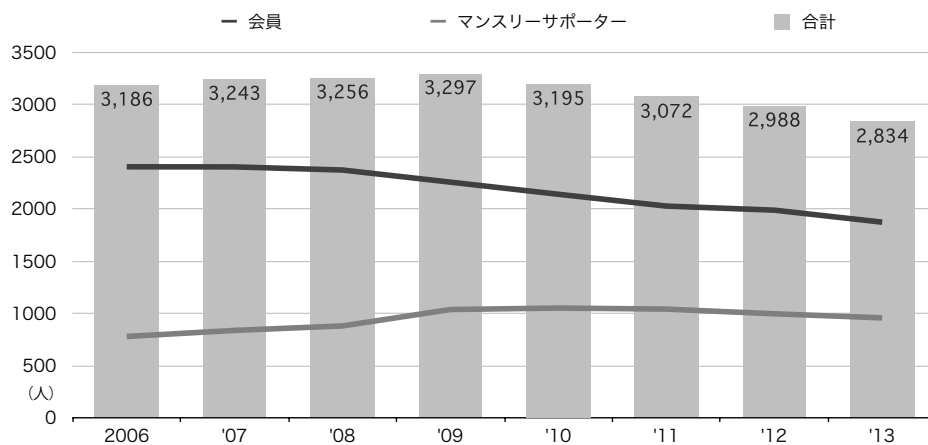
- ・ 中学生・高校生フォーラム（国立オリンピック記念青少年総合センター、8月8日～11日）
- ・ グローバルフェスタ JAPAN 2013（クラフト販売 10月5日、6日）
- ・ The ☆ Forum 2013（国立オリンピック記念青少年総合センター、3月23日、24日）

## ■ 会員・寄付者分布

※ ( ) 内は 2012 年度の実績

都道府県名	会員	マンスリーサポーター	都道府県名	会員	マンスリーサポーター
北海道	63 (64)	40 (40)	滋賀県	10 (11)	7 (7)
北海道計	63 (64)	40 (40)	京都府	36 (41)	16 (16)
青森県	5 (7)	4 (4)	大阪府	92 (98)	52 (52)
岩手県	3 (3)	3 (3)	兵庫県	46 (47)	30 (30)
宮城県	24 (25)	9 (10)	奈良県	15 (15)	8 (8)
秋田県	8 (8)	5 (4)	和歌山県	3 (3)	3 (3)
山形県	10 (9)	5 (5)	近畿計	202 (214)	116 (116)
福島県	25 (23)	9 (11)	鳥取県	4 (4)	4 (4)
東北計	75 (75)	35 (37)	島根県	3 (4)	1 (1)
茨城県	29 (31)	13 (14)	岡山県	10 (15)	15 (15)
栃木県	22 (27)	11 (13)	広島県	24 (25)	14 (14)
群馬県	16 (16)	9 (11)	山口県	21 (22)	10 (10)
埼玉県	105 (113)	43 (42)	中国計	68 (70)	44 (44)
千葉県	95 (108)	48 (49)	徳島県	11 (11)	1 (1)
東京都	531 (565)	282 (287)	香川県	5 (5)	2 (2)
神奈川県	250 (268)	113 (117)	愛媛県	12 (13)	7 (7)
関東計	1,048 (1,128)	519 (531)	高知県	4 (3)	2 (2)
山梨県	17 (15)	9 (9)	四国計	32 (32)	12 (12)
長野県	29 (31)	17 (16)	福岡県	39 (44)	26 (26)
新潟県	25 (27)	13 (13)	佐賀県	3 (4)	2 (2)
富山県	7 (7)	1 (1)	長崎県	10 (9)	10 (10)
石川県	18 (22)	4 (4)	熊本県	5 (5)	4 (4)
福井県	9 (10)	2 (2)	大分県	13 (13)	13 (13)
甲信越計	105 (112)	46 (45)	宮崎県	3 (3)	4 (4)
岐阜県	12 (13)	9 (9)	鹿児島県	11 (12)	3 (3)
静岡県	39 (42)	21 (22)	沖縄県	9 (8)	8 (8)
愛知県	69 (75)	30 (35)	九州沖縄計	93 (98)	70 (70)
三重県	23 (21)	12 (12)	海外	11 (19)	3 (4)
東海計	143 (151)	72 (75)	海外計	11 (19)	3 (4)
			不明	35 (27)	11 (12)
			総計	1,875 (1,990)	959 (988)

## ■ 会員・マンスリーサポーター推移



## ■ ステナイ生活寄付額

### ステナイ生活寄付額

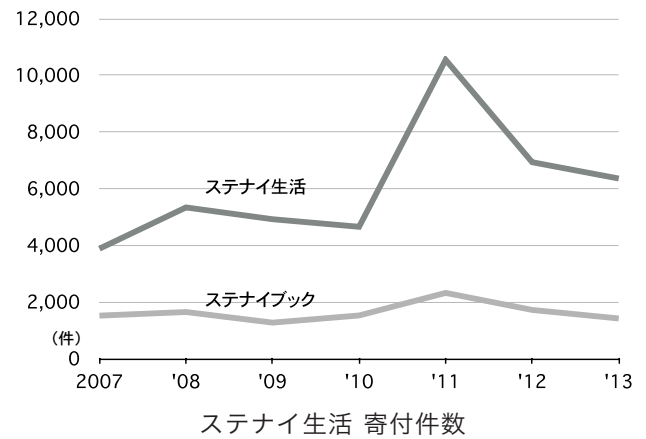
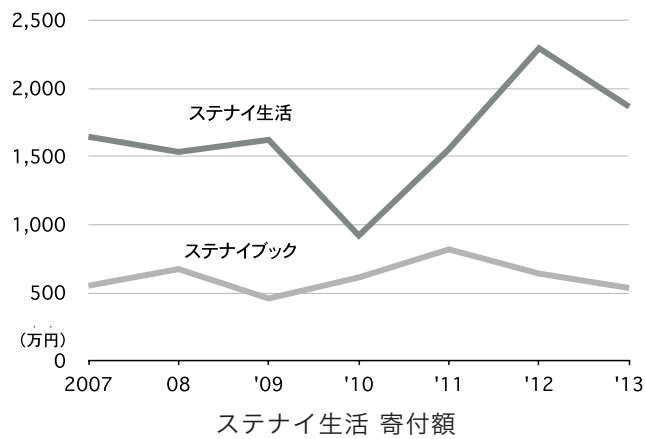
(単位：万円)

年度	2007	'08	'09	'10	'11	'12	'13
寄付額	1,647	1,535	1,624	921	1,556	2,297	1,867
ステナイブック	553	675	460	614	820	642	536

### ステナイ生活寄付件数

(単位：件)

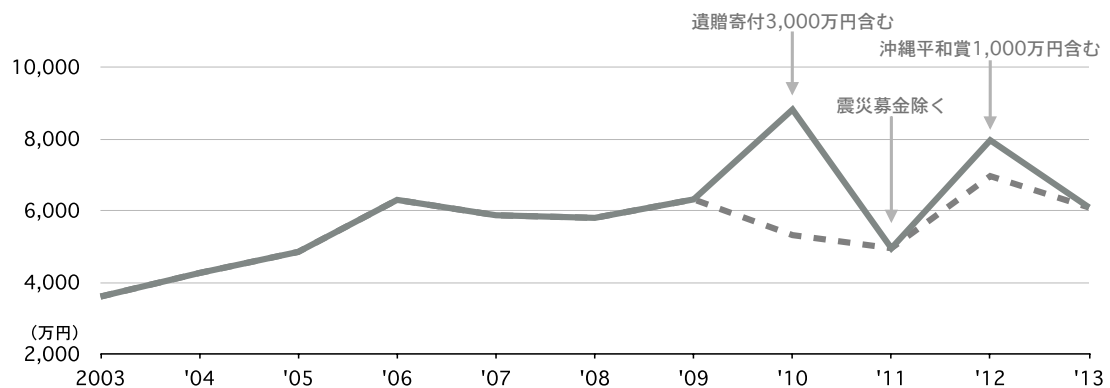
年度	2007	'08	'09	'10	'11	'12	'13
ステナイ生活	3,885	5,341	4,925	4,658	10,549	6,936	6,361
ステナイブック	1,523	1,650	1,276	1,529	2,325	1,724	1,423



## ■ 寄付金額

(単位：万円)

年度	2003	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13
寄付金総額	3,607	4,264	4,852	6,302	5,874	5,801	6,316	8,820	4,955	7,965	6,090



## ■ 活動計算書推移

(単位：千円)

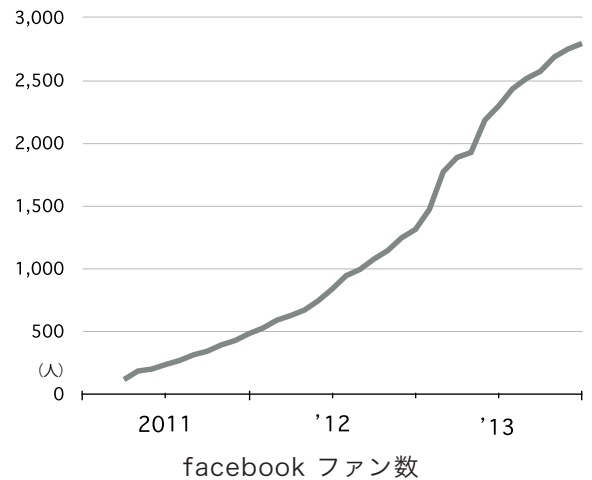
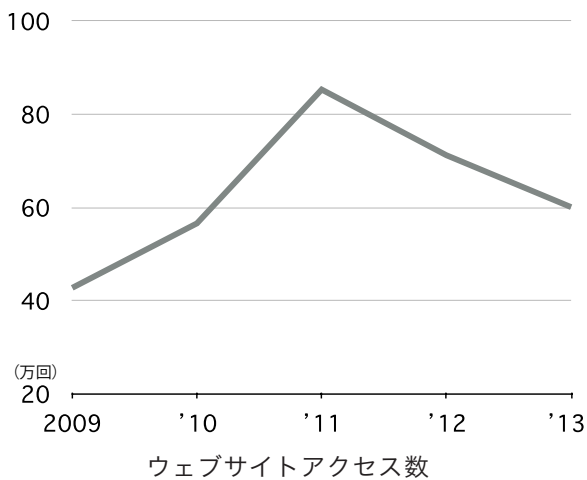
年度	2009	'10	'11	'12	'13
I 経常収益					
受取会費	22,355	21,850	20,230	19,713	19,060
受取寄付金	64,553	95,625	87,572	85,632	63,443
受取助成金等	53,003	86,438	84,640	60,530	79,974
事業収益	77,989	84,170	83,355	83,902	74,789
クラフトリンク活動収益	69,439	69,098	75,139	73,414	65,632
国内活動収益	3,703	4,172	1,947	6,200	3,100
緊急救援活動収益	0	0	0	0	4,121
知的貢献活動収益	4,847	10,900	6,270	4,288	1,935
その他収益	48	358	7,231	12,405	11,756
経常収益計	217,948	288,442	283,028	262,180	249,021
II 経常費用					
海外活動費	82,755	100,318	81,417	81,089	107,225
国内活動費	11,758	7,801	6,060	15,288	10,271
クラフトリンク活動費	72,348	75,306	82,852	80,859	69,490
緊急救援活動費	1,205	3,956	64,874	29,958	23,779
知的貢献活動費	7,064	5,826	4,736	3,822	1,774
事業部門計	175,129	193,208	239,939	211,015	212,539
管理部門計	52,014	76,802	33,802	42,954	39,423
経常費用計	227,143	270,010	273,741	253,969	251,962
当期経常増減額	▲ 9,195	18,432	9,287	8,211	▲ 2,941
III 経常外収益					
積立金取崩益	0	0	0	0	13,764
経常外収益計	0	0	0	0	13,764
当期正味財産増減額	▲ 9,195	18,432	9,287	8,211	10,824
前期繰越正味財産額	56,789	47,594	66,026	75,312	83,524
次期繰越正味財産額	47,594	66,026	75,312	83,524	94,347

## ■ 貸借対照表推移

(単位：千円)

年度	2009	'10	'11	'12	'13
I 資産の部					
1. 流動資産	64,017	107,461	141,712	161,417	133,601
うち 現預金	17,476	68,827	66,284	109,920	75,429
商品	18,131	16,972	16,697	15,661	22,951
2. 固定資産	37,855	37,393	39,692	39,750	41,449
資産合計	101,872	144,854	181,404	201,167	175,050
II 負債の部					
1. 流動負債	17,602	10,550	26,714	49,187	34,699
2. 固定負債	24,452	56,054	67,154	54,912	46,003
うち みらいファンド預託金	11,500	10,000	9,900	8,280	7,960
負債合計	42,054	66,604	93,867	104,099	80,702
III 正味財産の部					
基本金	609	609	609	609	0
みらいファンド	11,615	11,615	11,615	12,935	0
前期繰越正味財産	56,789	47,594	66,026	75,312	83,524
当期正味財産増減額	▲ 9,195	18,432	9,287	8,211	10,824
正味財産合計	59,818	78,250	87,537	97,068	94,347
負債及び正味財産合計	101,872	144,854	181,404	201,167	175,050

## ■ ウェブサイト、フェイスブック



## ■ 協力団体・委員会一覧 (2013年度、法人格略)

- ・国際協力 NGO センター (JANIC) (理事長)
- ・日本 NPO センター (副代表理事)
- ・開発教育協会 (DEAR) (理事)
- ・3.11 被災者を支援するいわき連絡協議会 (みんぶく) (理事)
- ・東京ボランティア・市民活動センター (運営委員)
- ・東京都国際交流・協力 TOKYO 連絡会 (運営委員)
- ・2015 防災世界会議日本 CSO ネットワーク (JCC2015) (幹事団体)
- ・NGO・労働組合国際協働フォーラム (合同企画委員)
- ・シーズ=市民活動を支える制度をつくる会 (会員)
- ・社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク (会員)
- ・フェアトレードタウン・ジャパン\* (会員・認定委員)
- ・WFTO (世界フェアトレード機構、プロビジョナルメンバー)
- ・東日本大震災支援全国ネットワーク (メンバー)
- ・ジュマ・ネット (アドバイザー委員)
- ・アトム通貨実行委員会早稲田・高田馬場支部 (実行委員)

## ■ 執行部一覧 (2014年4月30日現在)

### ○代表理事

岩城幸男

### ○副代表理事

坂口和隆

### ○理事

秋吉 恵、日下部 尚徳、斎藤 千宏、城 千聡、田辺 洋一郎、筒井 哲朗、長澤 恵美子、森田 恵、山崎 みどり

### ○監事

梅澤 健、中田 豊一

### ○評議員

雨森 孝悦、五十嵐 理奈、磯野 昌子、岩附 由香、遠藤 絵理子、大橋 正明、川口 恭子、黒田 かをり、桑原 安子、定松 栄一、里見 駿介、椎名 麻衣、田中 治彦、田中 政行、手島 大輔、永井 一史、長坂 寿久、新村 恵美、福井 崇人、福澤 郁文、村山 昭、望月 町子、モンズル ホック、山内 明子、横田 能洋、吉田 博、吉田 まさ子、吉富 志津代

### ○シニアアドバイザー

川口 善行、福澤 郁文、吉田 ユリノ

### ○事務局長

筒井 哲朗

### ○事務局職員

石井 大輔 (バングラデシュ駐在員)、猪瀬 絢子、上嶋 佑紀、植田 貴子、内本 充統 (バングラデシュ事務所長)、勝井 裕美、京井 杏奈、小松 豊明、佐藤 貴士、佐藤 緑、白幡 利雄、菅原 伸忠、杉山 和明、長瀬 桃子 (2013年7月入職)、平澤 志保、藤崎 文子、宮原 麻季 (ネパール事務所長)

# 主な掲載記事

沖縄タイムス 2013.08.25

## 平和こそ最大の福祉

### 取り残された人々

筒井 哲朗

## 社会構造踏まえ支援

### 周辺巻き込み活動拡大

が生まれ出されてきた社会に、支援もいっしょに活動の場を拡大していき、

このままでは、一掃もできない。取り残された人々を、取り残さないように、

センターで学ぶ。家事使用人として働く少女たち＝2008年、パンダラニール・シムラニール

沖縄タイムス 2013.07.28

## 平和こそ最大の福祉

### ストリートチルドレン

藤崎 文子

## 地域が協力支援充実

### 住民寄付 今も施設運営

の活動や、新しい取り組みも、

の活動や、新しい取り組みも、

の活動や、新しい取り組みも、

朝日新聞 2013.12.12

## 書き損じ年賀はがき 寄付できます

### アジアの働く子へ 新宿のNGO募る

集まったはがきは郵便局で切手シートに交換し、燃費する。未使用の切手を受け付け、約12万枚（5366万円）が集まった。寄付金は、パンダラニールが運営する、16歳未満の子どもたちを支援する「アジアの働く子」に寄付される。

読売新聞 2014.1.13

## 海外の子どもたちを支援する

### 読売新聞がNGO「アジアの働く子」を支援

読売新聞が、海外の子どもたちを支援するNGO「アジアの働く子」を支援する。読売新聞が、海外の子どもたちを支援するNGO「アジアの働く子」を支援する。

いわき民報 2013.7.5

## 人生を変えた女性たち

### シャプラニール 駐在員帰国報告会

人生を変えた女性たち

シャプラニール 駐在員帰国報告会

いわき民報 2014.2.17

## 民間支援団体担当者に聞く

### 災害公営住宅に対する支援とは

民間支援団体担当者に聞く

災害公営住宅に対する支援とは

琉球新報 2013.11.12

## 沖縄平和賞委に寄付

### JAGグループが56万円

沖縄平和賞委に寄付

JAGグループが56万円



オズプラス 2014年3月号



婦人画報 2013年12月号



ゼクシィ 2013年5月号



ベリー 2013年12月号



ノジュール 2013年5月号



# シャプラニール用語集

## 【あ】

### アカウントビリティ・セルフチェック <組織運営>

NGOが、アカウントビリティの状態を定期的に自己診断するツールで、国際的な基準を参考に日本の事情や法令を加味して作成された、41分野のチェック項目からできている。NGOによる組織体制の確認や改善の取組みを公表する制度。

### エンパワメント <海外活動>

人々の意識と能力の向上。または向上すること。用法によって多くの定義が存在するが、シャプラニールでは主に、当事者が自ら課題を認識し、その解決に向けて行動するための力がつくことを指して用いている。

## 【か】

### カトマンズ盆地の地震 <海外活動>

ネパールでは過去100年間にマグニチュード8.4を超える巨大地震が4回発生(1934、1966、1980、1988)。なかでも人口密集地であるカトマンズ盆地では約80年周期(前回は1934年)で起きると言われており、注目されている。

### 借上げ住宅 <東日本大震災>

震災発生後に一時的な避難住居として建設される、いわゆる「仮設住宅」に対し、アパートや一軒家などの空き家を一時提供住宅として利用するものをいう。みなし仮設とも。

### クシクシ倶楽部 <国内活動>

海外協力や身近な問題について知るイベントの企画・運営やクラフトリンク商品の販売などを行うボランティアグループ。

### gooddo (グッドドー) <国内活動>

facebookの「いいね!」ボタンを押すとポイントが加算されるなど、企業からの広告協賛費が自分の応援したい社会貢献団体に支援される仕組み。

### クラウドファンディング <国内活動>

ある目的、志などのため不特定多数の人からインターネットを利用して資金を集める行為、またそのための仕組みのこと。大衆(crowd)と財政的支援(funding)を組み合わせた造語であり、ソーシャルファンディングとも呼ばれる。

### 公立小学校の運営委員会 (バングラデシュ) <海外活動>

校舎の修理や環境整備、児童の就学・出席や教育活動の監督、地域社会との関係強化などを目的に、保護者や教師の代表、郡や中学校の教育関係者、地元名士ら11人で構成される。形骸化している例も多い。英語では、SMC (School Management Committee)。

## 【さ】

### サイクロン/サイクロンシェルター <海外活動>

インド洋や太平洋南部で発生する熱帯低気圧のこと(日本の台風と同じ)。バングラデシュは度々大きな被害を被っており、サイクロンによる暴風雨・高潮から人命や家畜を守るために建設されているのがサイクロンシェルター。

### サンタル (Santal) <海外活動>

民族の呼称。バングラデシュ北西部には20を超える先住民が住んでいるが、その人工のうち約75%の人口を占める。ほとんどのサンタルが全く土地を持たないか、ごくわずかしか所有しておらず、多くが日雇いで農作業等に従事している。

### シニアアドバイザー <組織運営>

代表・事務局長などとして会の運営や発展に多大な貢献をした人で、かつ現時点まで当会会員であったこと/あるいは過去に会員であった65歳以上の個人を対象とし、理事会が推薦と任命を行う。

### 社会福祉協議会 <国内活動、東日本大震災>

社会福祉法に基づき設置された、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした民間非営利組織。全国の都道府県、市区町村にあり、各種の福祉サービスや相談活動、ボランティアや市民活動の支援などを行っている。

### シャプラニール劇団 <国内活動>

演じることでバングラデシュやネパールの生活文化を学ぶことを目的に、1994年に結成されたボランティア・グループ。

### ジュマ <海外活動>

バングラデシュ南東部、アラカン山脈につながるバングラデシュ唯一の丘陵地帯であるチッタゴン丘陵地帯(Chittagong Hill Tract = CHT)に古くから暮らし、固有の文化を持つ13の民族の総称。

### スタディツアー <国内活動>

実施事業の現場、運営状況、成果、課題等についての理解を深めることを目的として、主に支援者を対象にバングラデシュ、ネパール両国で行う現場視察ツアー。当会では年3回程度行うことが多い。

### ステークホルダー <海外活動、組織運営>

企業・行政・NPO等の利害と行動に直接・間接的な利害関係を有する者を指す。また、日本語では利害関係者という。当会では、具体的にプロジェクト対象者(裨益者)、その家族、コミュニティー、学校、NGO、地方・中央行政、国際機関などを想定している。

### ソーシャルネットワークサービス (SNS) <国内活動>

facebook (フェイスブック) や twitter (ツイッター) など人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型のウェブサイトの総称。友人・知人間のコミュニケーションを円滑にする手段や場を提供したり、趣

味や嗜好、居住地域、「友人の友人」といったつながりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供するサービスのこと。

ソーシャルプロダクツ・アワード <クラフトリンク>  
機能や品質、デザインなどの「商品性」と、環境や人・社会に対する配慮である「社会性」を持った商品(ソーシャルプロダクツ)に与えられる、ソーシャルプロダクツの普及・推進を目的に設けられた表彰制度。ソーシャルプロダクツ普及推進協会が主催。

## 【た】

### タスクフォース <組織運営>

特定の目的のために一時的に設置されるグループのこと。これまでに、海外活動、40周年記念褒賞、40周年レセプション、遺贈、中期方針2007-2011評価、職場環境と人材育成、会報リニューアルに関するタスクフォースなどが編成された。

### 地域連絡会 <国内活動>

シャプラニールの活動や現地の生活・文化などを各地域で伝える活動を行うボランティアグループ。シャプラニールの会員が中心となり、2013年3月末で、全国23カ所にある。

### チョール <海外活動>

バングラデシュの公用語であるベンガル語で中洲を意味する。雨期になると消滅してしまうものから、100年以上も前から存在し、学校や市場が存在するものまで、さまざまなものがある。チョールに住む人々の生活は、一般の地域のそれよりも厳しいとされる。

### 東京インターナショナルギフトショー <クラフトリンク>

2013年2月の開催で77回目を数える、東京ビックサイトで開かれる流通バイヤー向け見本市。年2回、出展者数は2400社以上。She ソープを始め、クラフトリンクの商品を営業し、新規常設店を開拓する良い機会となっている。

## 【は】

### ピースアワード HIROSHIMA <組織運営>

広島が国際平和の拠点となるため、広島県が中心となって、「ピース・アーチ・ひろしま」プロジェクトを展開し、そのプロジェクトの一環として世界各地で地域に根付いた平和貢献活動を地道に実施している個人・団体に対する表彰制度。

### フェアトレードタウン・ジャパン <クラフトリンク>

日本各地のフェアトレードタウン運動推進団体やフェアトレード団体が参加し、2011年4月に設立された社団法人。まちぐるみでフェアトレードを推進する「フェアトレードタウン運動」を中心に、日本におけるフェアトレードの普及、推進を目指す。

## 【ま】

### みんぶく <東日本大震災>

「3.11被災者を支援するいわき連絡協議会」の事。略称で「みんぶく」と呼ばれる。当会は設立当初より理事を派遣し、運営に参加・協力している。

## 【な】

### 日経ソーシャルイニシアチブ大賞 <組織運営>

優れた社会的課題解決を目的とする事業(ソーシャルビジネス)に取り組むNPOや株式会社などに日本経済新聞社より与えられる表彰制度。

## 【や】

### ユース・チーム <国内活動>

中学生や高校生、大学生にワークショップを通じて国際協力について楽しく学んでもらう会合を企画・運営するボランティアグループ。

### ユニオン(行政村) <海外活動>

バングラデシュにおける行政の最末端単位。約4,500のユニオンがあり、平均人口はおおよそ33,000人。日本の村議会に相当する評議会(Union Council)がおかれ、議員は住民の直接投票によって選ばれる。



特定非営利活動法人  
シャプラニール=市民による海外協力の会

◆東京事務所

169-8611 東京都新宿区西早稲田 2-3-1 早稲田奉仕園内  
TEL 03-3202-7863 FAX 03-3202-4593  
(火曜日から土曜日 10:00 ~ 18:00 月曜・日曜祭日定休)

いわき事務所

970-8026 福島県いわき市平字一丁目 25 スカイストア内  
TEL 0246-38-6785 FAX 0246-38-6786

◆ダッカ事務所

9/19 Iqbal Road, Block-A, Mohammadpur, Dhaka-1207,  
Bangladesh, G.P.O BOX 332

◆カトマンズ事務所

Kupondole, Lalitpur, Nepal, P.O.Box23884